

令和6年7月定例教育委員会会議録

1. 日 時 令和6年7月25日（木）午後1時30分～午後7時55分
2. 場 所 岸和田市教育センター2階 大研修室
3. 出席者
教育長 大下 達哉 教育長職務代理者 植原 和彦 委員 谷口 馨
委員 野口 和江 委員 和田 郁美
4. 事務局出席者
教育次長兼教育総務部長 藤浪 秀樹／学校教育部長 長岡 英晃
生涯学習部長 池内 正彰／総務課長 柿花 真紀子
学校適正配置推進課長 西河 鉄二／学校給食課長 寺埜 朗
学校管理課長 松下 英俊／産業高校学務課長 橋本 純／学校教育課長 松本 秀規
人権教育課長 松本 真里／生涯学習課長 井出 英明
スポーツ振興課長 河内 みどり／郷土文化課長 井上 慎二／図書館長 宇野 義文
総務課主幹 二宮 明生

開会 午後1時30分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に野口委員を指名した。
傍聴人12名。

○大下教育長

ただいまから、7月定例教育委員会会議を開催します。

報告に入る前に、非公開の決定ですが、本日の案件のうち、議案第34号は個人を特定している内容が含まれていることから「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項の規定により非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(教育委員、了承)

では、そのように取扱います。

報告第43号 令和5年度 学校給食費収支状況について

○大下教育長

報告第43号について、説明をお願いします。

○寺埜学校給食課長

報告第43号につきましては、令和5年度 学校給食費収支状況についてです。

教職員の働き方改革の一環として、令和5年度から学校給食費の公会計を実施しました。私会計の時には各学校で1つの金融機関を指定し口座振替を行っていましたが、今回、利便性を考え口座振替の取扱い金融機関を複数設けると共に、残高不足となった場合や口座振替手続きがまだの方などには納付書を発行し、金融機関以外にもコンビニエンスストアやスマートフォン決済サービスなどにも対応できるよう支払い方法も複数設定しています。

また、児童生徒については、給食費の無償化が実施されたことから、実質3ヶ月分の給食費の徴収を行うこととなりました。その収納率等については次のページの別紙のとおりです。

小学校については99.23%、中学校については収納率が99.08%となりました。小中合わせて収納率は99.17%で、収入未済額は221万759円でした。

ただし、収入済額のなかには二重納付など、本人に返済をしなくてはならない返済未済額が9,187円含まれていますので、滞納繰越分としては、これを足して221万9,946円となります。

参考に、私会計時の収納率については、直近の5年平均で小学校が99.77%、中学校が99.35%でした。

なお、この集計時点で小学校については、令和4年度分の未納額集計が3校で、最終額の報告をいただいていないため、その3校については令和4年11月現在の未納額を入力し計算していましたが、昨日時点で全ての学校から回答があり、収納率については99.80%となりました。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第44号 桜の苗木の寄贈について

○大下教育長

報告第44号について、説明をお願いします。

○松下学校管理課長

報告第44号につきましては、桜の苗木の寄贈についてです。

寄贈品名は桜の植樹一式（苗木8本）で桜台中学校への寄贈となっております。

換算額は412,000円です。

寄贈目的は、中学校の教育環境美化のため、岸和田ロータリークラブ創立70周年記念事業として植樹したものです。

寄贈者は、岸和田ロータリークラブ様です。寄贈年月日は令和6年5月19日、今回は植樹に関する意向調査を実施し、その中から桜台中学校に植樹されましたが、他の学校についても時期は未定ですが、継続事業として実施していただけるとお聞きしております。寄贈品の主な写真は別紙のとおりです。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

比較的大きな苗木ですが、来年には花が咲きそうでしょうか。

○松下学校管理課長

はい。

○大下教育長

有難いです。何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。
ないようですので、報告として承りました。

報告第 45 号 可動式黒板・ホワイトボード等の寄贈について

○大下教育長

報告第 45 号について、説明をお願いします。

○松下学校管理課長

報告第 45 号につきましては、可動式黒板・ホワイトボード等の寄贈についてです。

寄贈品名は可動式黒板・ホワイトボード 1 台、衝立 1 台、長机 5 脚、会議椅子 8 脚、丸椅子 14 脚で換算額は 98,000 円です。

希望校を調査したところ浜小学校、八木小学校、常盤小学校、山直北小学校、旭小学校、久米田中学校から希望がありました。寄贈目的は、地域小中学校の教育振興に使用のためです。寄贈者は、岸和田中央商業協同組合様です。寄贈年月日は令和 6 年 6 月 26 日、寄贈品の主な写真は別紙のとおりです。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。
各学校で大切に使うようにお伝えをお願いします。
他にないようですので、報告として承りました。

報告第 46 号 中学生体験入学の実施について

○大下教育長

報告第 46 号について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

報告第 46 号につきましては、中学生体験入学の実施についてです。

産業高校の教育内容、進路状況及び学校生活の紹介と、商業科・情報科・デザインシステム科の特色ある科目の一部を実習することにより、産業高校に対する理解と関心を深め、進路選択の参考にさせていただくことを目的に、中学生体験入学を実施します。

日程は、商業科・情報科は 7 月 24 日と 25 日、デザインシステム科は 26 日の、合わせて 3 日間です。内容は、学校・学科案内、体験授業、部活動見学等で、対象は中学 2、3 年生とその保護者、中学校の教職員です。周知方法は、堺市以南の中学校へ案内文をお送りしたほか、広報きしわだ 7 月号や産高ホームページに掲載しております。

申し込み方法はホームページから直接申し込みいただきました。別紙は体験入学実施要項です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

参加者人数がわかれば教えていただきたいのと、在校生が補助員として参加して下さったと思います。在校生にとっても親しみが持てて本当によかったなと思うのですが、補助員とし

てどのような活動をされたのか教えていただけたらと思います。

○橋本産業高校学務課長

まずお申し込みいただいた生徒さん中学生ですけれども、まず商業科情報科は両方合わせて191名、デザインシステム科から60名の中学生の方にお申し込み頂きました。また、在校生にも参加して頂きました。校内の案内をしてもらったり、一緒に実習をしたりしています。

前年度との比較ですが、昨年は商業科情報科が183名の申し込みがあり、デザインシステム科は76名の申し込みがありましたので、商業科情報科については若干増ですけどもデザインシステム科については若干減った人数となりました。

○和田委員

広報をみましたが2ページ使って、大々的に掲載されていました。新たな魅力を伝えられたのではと思います。岸和田の子はどこからでも自転車で行ける距離なので、楽しく通えると聞きます。体験入学は、これで終わりでしょうか。秋とかにはないですか。

○橋本産業高校学務課長

体験入学という形態としてはこの夏休みだけにはなってしまうのですが、学校説明会等についてはまだまだ複数回、予定しております。

○谷口委員

体験入学が実際の入学に繋がったというのはどれぐらい事例があるのでしょうか。

○橋本産業高校学務課長

そこまで追跡できてはいないのですが、実際に入学者のアンケートで、体験入学に来てくれたか、また学校説明会に来てくれたのかを尋ねる機会があるのですが、その時は割と来ていましたと答えてくれている生徒が多いようなので、実際の入学や受験にも繋がっているのではと考えているところです。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第47 # (ハッシュタグ) コウホウブの立ち上げについて

○大下教育長

報告第47について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

報告第47につきましては、# (ハッシュタグ) コウホウブの立ち上げについてです。

産業高校のクラブ活動として、新たにコウホウブを立ち上げました。SNSを活用し、産業高校の授業内容や部活動、学校行事などを中心に、高校生目線でみた産業高校の魅力を中学生向けに発信することを活動内容とする部活動です。

部員には部活動を通じて、商業科で学ぶマーケティングの他、情報科で学ぶメディアリテラシー、デザインシステム科で学ぶ映像編集の技術などを活かしてもらいたいと考えています。

なお、投稿にあたっては複数の教員で内容を確認した上で顧問の教員がSNSに投稿します。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

YouTube 拝見しました。生徒さん本当にタレントのように、素晴らしい映像になっていたと思います。本当に一番心配なのはやっぱり人権に関わるようなことで何かことが起こらないかということで一番心配です。そのあたりは学校の方で十分お気をつけていただきたいと思います。

○橋本産業高校学務課長

その点につきましては、教員の方でもチェックした上で投稿するという事に注意を払ってさせて頂こうと思っております。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 48 産業高校開発商品のふるさと寄付返礼品化について

○大下教育長

報告第 48 について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

報告第 47 につきましては、産業高校開発商品のふるさと寄付返礼品化についてです。

産業高校の商品開発クラブが開発した「高校生が贈る ザ・レモンカレー」を岸和田市のふるさと寄付の返礼品に加えます。

産業高校の特色ある取組を広く PRするとともに、ご協力いただいている企業にもメリットを出すことで、さらなるご協力をいただける、そんな循環ができればと考えております。

返礼品はレトルトカレー180 グラム6食入りで、ふるさと寄付を所管しております企画課との調整の結果、寄付額9千円に対する返礼品といたしました。

周知方法は、ふるさと寄付ポータルサイトに掲載のほか、岸和田市のふるさと寄付業務を受託している(株)さとふると同時の報道提供、9月議会告示日に行う記者会見の場をお借りして、商品開発クラブの部員による記者発表、産業高校のホームページへの掲載を予定しています。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

第2弾、第3弾もあるのでしょうか。

○橋本産業高校学務課長

今、企画課とも検討させて頂いており、商品開発クラブの方で作っております「みそこんぶもん」の商品も実現できないか検討を進めているところです。今回はレトルトカレーの方が賞味期限も長いですし、扱いやすいというところでレトルトカレーから手がけさせて頂きました。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 49 号 第 36 回濱田青陵賞受賞者の決定について

○大下教育長

報告第 49 号について、説明をお願いします。

○井上郷土文化課長

報告第 49 号につきましては、第 36 回濱田青陵賞受賞者の決定についてです。

選考委員会が、令和 6 年 5 月 28 日（火）に、朝日新聞大阪本社にて開催され、受賞者を決定いたしました。資料をご覧ください。

まず、「濱田青陵賞」は、考古学の分野で業績のあった新進の研究者を選考・表彰するもので、今回で 36 回目を迎えました。

今回の受賞者ですが、東京大学大学院人文社会系研究科准教授の森先一貴（もりさきかずき）氏 45 歳です。業績は、日本旧石器時代の体系的研究と日本のみならず、国際的な旧石器研究を牽引していく研究者として評価されました。

報告書に戻って頂きまして、周知方法ですが、7 月 25 日に報道提供を行い、翌日の 26 日に朝日新聞の朝刊にて掲載される予定です。また、市のホームページ、広報きしわだ 8 月号にも掲載いたします。授賞式等は、9 月 22 日（日）にマドカホールにて開催予定です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 50 号 「大阪お城フェス 2024」における企画展示会場への出展について

○大下教育長

報告第 50 号について、説明をお願いします。

○井上郷土文化課長

報告第 50 号につきましては、「大阪お城フェス 2024」における企画展示会場への出展についてです。

まず別紙②をご覧ください。テレビ大阪等が主催しています、第 3 回大阪お城フェスが、8 月 10 日（土）から 12 日（月）にグランフロント大阪で開催されます。第 1 回、2 回も観光課、観光振興協会が参加していましたが、今回は、会場入り口に設置される企画展示会場に岸和田城をテーマに実施したいと主催者より依頼があり、この度教育委員会も出展することになりました。

展示の趣旨については、1 枚目にお戻り下さい。4 に記載のとおり、城単体ではなく藩主岡部家も含めた歴史を取り上げます。主な展示資料は、別紙①をご覧ください。「徳川（とくがわ）家康感状（いえやすかんじょう）写（うつし）」や「御天守（ごてんしゅ）御類焼（ごるいしょう）一件（いっけん）」など 10 件の展示を予定しています。

この他に、人数は限られますが、子どもを対象に、実際の甲冑を着てもらって体験を予定しています。

また、初日の 8 月 10 日午前 11 時から当課職員による岸和田城に関するセミナー、11 日 14 時 30 分からは、当課職員も参加し「大阪城を取り巻く城・岸和田城・尼崎城・高槻城・淀城など」と題したフォーラムも開催の予定です。

最後にその他のところですが、お城フェスとは別件ですが、より多くの市民に本市の方に文化財を周知することで、興味・理解を深める機会とするため、市内で文化財のパネル展示を巡回して行っております。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。
ないようですので、報告として承りました。

報告事項は以上ですが、他に何かございませんか。

○松本人権教育課長

先月の報告第 40 号で令和 5 年度岸和田市立中学校在籍生徒の進路状況について、野口委員より、16 名が進学した専修学校でどのような教育内容を学んでいるのかについてご質問がありました。

専修学校での教育内容ですが、自動車関係の知識や技能、ヘアメイクなど美容、ゲーム、ビジネスなどの IT、情報コンピューター、ドッグケア、商業科（会計・販売）、保育科などです。

○大下教育長

追加の報告を承りました。

では、議案の審議に移ります。

議案第 27 号 令和 7 年度市立幼稚園児の募集について

○大下教育長

議案第 27 号について、説明をお願いします。

○柿花総務課長

議案第 27 号につきましては、令和 7 年度市立幼稚園児の募集についてです。

市立幼稚園の募集要項に基づきまして、3 歳児、4 歳児及び 5 歳児の園児を募集します。日程ですが、別紙①の 3 歳児募集要項をご覧ください。願書の配付を 9 月 2 日（月）から、受付は 11 日（水）、12 日（木）で行います。

次に別紙②の 4、5 歳児の募集要項をご覧ください。4、5 歳児は願書の配付を 9 月 25 日（水）から、受付を 10 月 1 日（火）、2 日（水）で行います。次に昨年度との変更のある箇所について説明します。引き続き 4、5 歳児の募集要項をご覧ください。

まず、「2 募集園」のところで幼保再編の中期個別計画に基づき、旭幼稚園が今年度末で閉園しますので、募集を停止しています。なお、参考ですが、令和 7 年度開園の（仮称）旭・太田認定こども園についても、幼稚園の募集と時期を合わせ、別途募集が行われます。こちらは、子ども園推進課や旭幼稚園が連携し、受付等が行われる予定です。

次に、「8 市立幼稚園及び保育所の再編」のところで、令和 9 年 3 月に光明幼稚園の閉園や認定こども園への転園、令和 9 年 4 月に認定こども園の開園について記載をしています。

この部分は 3 歳児の募集要項にも同様に載せていまして、光明幼稚園では 3 歳児受入れ実施はしていませんが、令和 7 年度に常盤幼稚園に 3 歳児で入園し、4・5 歳児で光明幼稚園へ転園する方もおられる可能性がありますので、そういった方は途中転園が必要となるため、その旨を記載しています。

最後に、「4 入園の決定」のところで、幼稚園の入園の手続において、春木幼稚園や大芝幼稚園に限っては、入園後に認定こども園への転園がある場合、場合によっては認定こども園への転園について公開抽選が伴うことを記載しています。

これら園児募集の広報は、3 歳児は広報きしわだ 8 月号、4、5 歳児は広報きしわだ 9 月号、

市のホームページ、幼稚園と各町会や自治会に協力をいただき、ポスター掲示を行う予定です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

春木幼稚園、大芝幼稚園の閉園に伴うことについてなんですが、別紙2の3に書いてありますが、20人を超えて申し込みがあった場合、公開抽選を行うということなのですが、(仮称)春木・大芝認定こども園の定員が20人ということでしょうか。

○柿花総務課長

はい。(仮称)春木・大芝認定こども園の受け入れの1号認定定員程度が20名ということになっております。

○野口委員

ここで公開抽選になった場合は、他のところから、この認定こども園に入ろうというのはいくつかできないということになるわけですね。

○柿花総務課長

はい。実際の開園は少し先になりますので、(仮称)春木・大芝認定こども園の開園に先立つ前年度の認定こども園での募集というのがまだ先にあるのですけれども、その段階で、空きがあれば、そちらへの入園ということに対する応募ということができますし、そちらに空きがない状態であれば、待機という形での応募というふうに聞いております。

○野口委員

それについては、市民の方に納得していただけるように、きちっと丁寧に説明しておく必要があるのではという気がします。よろしくをお願いします。

○大下教育長

他にございませんでしょうか。ないようですので、本件については原案の通り承認することといたします。

議案第28号 補正予算について(債務負担行為)について

○大下教育長

議案第28号について、説明をお願いします。

○寺埜学校給務課長

議案第28号につきましては、補正予算について(債務負担行為)についてです。

小学校給食室のスチームコンベクションオープンの賃貸借契約の更新について、当初予定していた機器価格とリース料率が上昇したことをうけ事業費が高騰したため、機器の仕様等再精査を行ったところ事業費不足が判明しました。

このことから、令和6年度当初予算で計上していた債務負担行為の限度額の増額変更と、給食の運用上、夏休みを利用し機器更新を行いたいため、事業期間の変更も併せて、第3回定例市議会において審議いただくものです。

限度額及び期間変更につきまして、当初の限度額8,352万円以内から1億2,102万円以内へ3,750万円の増額変更となります。期間については1ヶ月前倒しし令和7年9月から令和19年8月まで(144ヶ月)、年度割については、添付の資料に記載していますが、令和6年度

を0円とし、令和7年度から令和19年度まで事業を進めます。

スケジュールについては、9月の定例会で議決を頂いたあと、準備に入り、11月に厨房業者による指名競争入札を行い、12月にリース会社も含めた3者による契約を締結し、機器の納入準備を行い、令和7年度の夏休みに設置し2学期から使用できる予定で進めています。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。ないようですので、本件については原案の通り承認することといたします。

議案第29号 補正予算について（事業費補正・補助金返還）について

○大下教育長

議案第29号について、説明をお願いします。

○松下学校管理課長

議案第29号につきましては、補正予算について（事業費補正・補助金返還）についてです。

岸和田市立幼稚園及び保育所再編方針及び岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画の前期計画により、今後の就学前児童に対する良質な教育・保育環境の提供などを勘案し、市立東光幼稚園を廃止したことに伴い、公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分について、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律に基づき、国庫補助金の一部を償還することとなるため、補正予算を令和6年第3回定例市議会にて審議いただくものです。別紙に令和6年度の歳入歳出予算補正見積書を添付しております。説明は以上です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。法律に基づく措置ですので、本件についてはよろしいでしょうか。他にないようですので、本件については原案の通り承認することといたします。

議案第30号 補正予算について（事業費補正）について

○大下教育長

議案第30号について、説明をお願いします。

○宇野図書館長

議案第30号につきましては、補正予算について（事業費補正）についてです。

ご寄附をいただきましたので、令和6年第3回定例市議会に歳入・歳出補正予算を審議いただくものです。

ご寄附をいただきましたのは、一般財団法人永井熊七記念財団様からで、図書購入費用として今年6月12日に現金100万円をご寄附いただきました。歳入歳出予算補正見積書（案）は別紙のとおりです。

今回のご寄附も含め、永井熊七記念財団様からは昭和51年より、図書館に対してほぼ毎年ご寄附をいただいております。寄附総額は累計でおよそ4,800万円、購入した本はおよそ16,000冊になります。説明は以上です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○植原教育長職務代理者

図書館では、毎年寄附してもらっていると思います。それをどのように展示していますか。永井熊七記念財団からいただいたものを、図書館の中にどのように配架しているのでしょうか。

○宇野図書館長

永井文庫のブースを設けまして、購入させていただいた本を配架させていただいております。

○植原教育長職務代理者

そこには今までの全ての本を置いているのですか。

○宇野図書館長

そのブースには、直近に購入させていただいた本のみを一定の期間配架し、ご紹介するようにしており、今までに購入させていただいた本については、館内で蔵書させていただいております。

○大下教育長

他にございませんでしょうか。では、ないようですので、本件については原案の通り承認することといたします。

次からの議案については教科用図書の採択についての議案でございます。事務局の職員で、教科書採択に関係のない職員については退出をお願いいたします。

議案第 31 号 岸和田市立小学校における令和 7 年度使用教科用図書の採択について

○大下教育長

議案第 31 号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

議案第 31 号につきましては、岸和田市立小学校における令和 7 年度使用教科用図書の採択についてです。

岸和田市立小学校における令和 7 年度使用教科用図書の使用について法令に基づき教育委員会で採択するものです。

別紙 1 をご覧ください。岸和田市内小学校においては、一覧に記載しております教科用図書を令和 6 年度より使用しております。

次に、別紙 2 をご覧ください。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（以下無償措置法と言います）の第 14 条において、「政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。」と定められております。この「政令で定める期間」とは、無償措置法施行令第 15 条に「種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第九条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。」と定められております。

このことから、小学校教科書の採択につきましては、本年度と同じものを引き続き使用することとしております。ご審議よろしく申し上げます。

○大下教育長

説明が終わりました。4 年間使い続けることが可能であるということで、来年度は 2 年目にあたります。岸和田市立小学校における令和 7 年度使用教科用図書を、今年度と同じものを採択するということがよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

○大下教育長

それでは、承認し、採択いたします。

議案第 32 号 岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における令和 7 年度使用教科用図書の採択について

○大下教育長

議案第 32 号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

議案第 32 号につきまして、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における令和 7 年度使用教科用図書の採択についてです。

本件は、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）で令和 7 年度に使用する教科用図書について教育委員会で採択するため、産業高等学校における教科用図書選定委員会の答申を提出するものです。

採択のご審議をいただくにあたり、産業高等学校の方から選定委員会の報告を説明いたします。

《全日制》

○齋藤産業高校全日制教務部長

今年度につきましては、昨年度、1，2，3 年生ともに新しい、教育課程に沿うものとして教科書を出ささせていただき、今年度は新しい教科書で全学年の勉強がスタートしております。

基本的には昨年度に出ささせていただきました使用教科書と変わるところはございませんが、1 冊のみ変更をお願いするため、本日は見本を持ってきました。

原価計算の教科書になります。どうぞよろしく願いいたします。

この原価計算という科目ですけれども、原材料から物をつくり上げる際にどのように価値が変わっていくのかというところで、勉強していくものになります。

一昨年度に採用されたこの原価計算の教科書で、昨年度、2 年生が 1 年間勉強して参りました。当初、選んだ理由としましては、二次元コード等も掲載されていること、それからイラスト等もたくさんあり、わかりよいことというところで、選ばせていただいております。

本校の教育を行っていく上で、もう 1 つ候補に挙がっております。

東京法令出版の原価計算の教科書、これと、再度検証いたしまして、今回この東京法令出版の教科書の方がふさわしいのではないかという結論に達したため、お持ちした次第です。

変更の理由といたしましては、まず、学びの組み立て方が理解しやすい順序で構成されております。いわばオーソドックスな形になっております。

それから、毎時の授業において押さえておくべき要点が枠で囲んである等の形でわかりやすく明示されております。そして、イラストと書かれておりますが、むしろ図解です。

原価計算では、商品の流れと計算の仕組み、これを頭でしっかり理解することが必要になります。その際、東京法令出版の教科書に書かれている矢印等を対応した図解によって、よりわかりよい授業を展開することができ、生徒達の理解を促すことができるということになっております。

練習問題も多く、様々な角度からの問題に触れることができます。

実は、昨年度まで採用しておりました実教出版の教科書では、二次元のマークがあり、それを読み取ると、インターネット上にあるコンテンツを利用できる点がメリットでありました。

本校でもiPadを導入しておりますので、生徒一人一人がその二次元コンテンツを使うことができるのですが、二次元コードそのものが、実は6項目用意されておまして、その6項目それぞれがアニメーションによる解説の形式のコンテンツとなっております。

それはそれでももちろん、理解の方を促すには有効であったのですが、原価計算という科目の特性上、より多く練習問題に触れ、自分の手を動かして、しっかり図解を理解し、計算のプロセス等をわかっていくというところで、こちらの東京法令出版のテキストの方がより本校の教育に適していると結論づけられました。

そのため、まだ1年しか実教出版の教科書は使っておりませんので、今年度2年目になります。途中まで行っている状況ですが、次年度からは、この東京法令出版の教科書に変更したいということで、本日はご審議いただきたく、見本とともに持ちいたしました。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○大下教育長

定時制の方も続けてお願いします。

○杉本産業高校定時制教務主任

定時制課程は、学年が4学年までありますので、今年度お持ちしました教科書は次年度の4年生で、新カリキュラムに伴う新規採用にあたる教科書を選定したという形でお持ちをしております。

昨年度までに承認いただいている教科書での変更はありません。

それでは教科書の選定理由の方を説明させていただきます。

定時制の方では6冊、対象がありますが、まず1つめは数学の数学Aという教科書になります。数研出版の新高校の数学Aという教科書です。

こちらの選定理由ですけれども、本文がわかりやすい記述となっております、抵抗感がなく、学習に取り組めるということです。

また小扉や本文コラムなどにより、数学が実生活で役立っていることを感じさせる構成となっている。数学への意欲、興味関心が引き出されるように構成されている。さらに、二次元コードの読み取りにより、解説映像などのコンテンツが参照できるということで、生徒が主体的に学習できる工夫が施されていると。こういった理由から、選定に至ったということになります。

続いて2冊目の物理基礎の教科書です。東京書籍の新編物理基礎という教科書です。

こちらは基礎基本を大切に図解が中心の教科書となっております、見開きで問いから実験、結果考察本文と、思考の過程に沿った構成となっているということです。

特に実験の部分では、結果の見方や考察のポイントが記載されており、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されているということです。

また各節冒頭には、身の回りの現象を物理学の視点で考える問いかけがあり、興味関心を持ちやすい導入となっている。生徒がつまずきやすい内容も段階的に考えて問題に取り組み、学習の定着を図るよう工夫されている。こういった理由から、本書の選定に至りました。

続いて3冊目の商業科、マーケティングの教科書、実教出版のマーケティングになります。こちらは本文と、事例コラム図解などの組み合わせによる展開で教科書が作られておりまして、理論から実務まで幅広く対応されており、マーケティング能力の育成に適していると考えられます。特に文章と図、写真事例などの組み合わせがページ単位となっております、生徒が興味を持って、学習しやすい構成であると考えました。

また、難解な表現も注釈などで丁寧に解説されておりまして、生徒が主体的に学習できる教科書であると考えて本書の選定に至りました。

続いて4冊目です。商業科目の新財務会計Ⅰ、実教出版の教科書になります。

こちらは、入学段階から継続的に学習している簿記の上に立つさらに高度な財務諸表の作成や活用の方法を学ぶ科目であります。この教科書は、これまでの既習事項とうまく関連づけられた解説が多く入っておりまして、高度な財務会計の基礎基本を、自然な流れで習得できる構成になっています。

また、例題や章末編末にある練習問題も、数が多く豊富でありまして、生徒が反復的かつ自主的に学習できる構成となっております。図説色分け等も豊富で、生徒の理解に役立つ教科書であると考え、選定に至りました。

続いて5冊目です。商業科目の原価計算になります。実教出版の教科書です。

こちらは製品原価を求めるといふ、高校生の日常生活にはあまり一般的ではない内容を取り扱うのですが、そういった制度の理解に役立つ工夫が取り入れられております。本文の解説は丁寧で、全編カラーによる図説、またイラストなど、解説が充実しております。

また基礎的な項目から応用へと、段階を追って学習できるようになっておりまして、巻末には調べ学習、またグループ学習に適したような特集も入っていることから、本書の選定に至りました。

そして最後6冊目です。商業科目のプログラミングという実教出版の教科書になります。こちらプログラミングの基本的な内容からシステム開発などへの応用に至るまで、学習内容が無理なく構成配置されているというところです。

図表や画面のイメージ、処理手順を示す流れ図なども豊富に入っておりまして、それぞれの例題ごとに実行結果のイメージも示されているなど、生徒の理解を促す構成となっているところから、生徒の学習に適していると考えて選定に至りました。

定時制からは以上、6冊になりますよろしくお願いたします。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

定時制の方は、学習指導要領の改定に伴う改定ということで、理解できるのですが、全日程の方は、使いやすいとわかりやすいというのは、実際、先生方がそのように感じられたのか生徒の方からの反応が思ったようではなかったからなのでしょうか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

実は教員の方からも、こちらの方が扱い良いという話、それから生徒につきましても、問題の豊富さから、こちらの方が実務により即した形で使いやすいということで選ばせていただいております。

○谷口委員

いいものがあれば変わるの、別に悪いとは言えないのですが、前の選定のときにこの教科書もあったので、その時に十分、審査していただいたと思います。生徒が言ったのであれば、先生方が思ったよりも生徒達の反応がよくなかったので変えるのはいいと思うのですが、先生方が思われるとのことであれば、前回の選定を考える必要があるのではないかと、そのように考えます。

○齋藤産業高校全日制教務部長

ご指摘重く受けまして、学校に持ち帰って教員の方とも共有したいと思っております。本校では、検定試験等も受けております。その結果等も踏まえた上で、今回このような形で出させていただいておりますことを申し添えます。

○谷口委員

教科書は羅針盤ですので、羅針盤が途中で変わると非常に混乱が出ますので、どうかよろしくお願いいたします。

○植原教育長職務代理者

同じく原価計算の教科書変更ということですね。原価計算は教育課程を見ると、商品開発流通との選択教科ですね。選択教科の両方の中で、同じ会社ですね。東京法令出版ですよ。内容的にも重なる部分があり、指導しやすくなることは事実だと思うし、計算問題がとて多いですね。これだけ解くにはかなり時間がかかると思われます。

原価計算は、非常に大事であり、計算1つ間違ると外部や債権者との兼ね合いが出てくるので、できるだけ実例を入れている教科書の方が僕はいいと思うので、1年限りで変更することは学校として随分苦慮したと思いますが、今後の学生の将来を見据えると賛成いたします。

○大下教育長

私からも1点、全日制は、教科書を今回変えて東京法令出版にされる。一方定時制は、新たに、今、全日制で使っている原価計算の教科書を使われる。その差はどのように理解をすればいいのでしょうか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

やはり定時制と全日制とで違いがあります。本来、全日制の方ではこの原価計算の教科書、今お話がありましたけれども、たくさん問題をこなすことによって、検定試験も見据えています。その検定試験でしっかり合格を勝ち取るためには、やはりたくさん問題数をこなす、仕組みをしっかり理解するということが必要になります。もちろん初歩的なところから応用へというところでは、どちらの教科書も網羅をしているかと思いますが、より計算を重視しているのは東京法令出版ではないかという話が、本校の教員の中では出ておりました。

○植原教育長職務代理者

定時制では、何年生で原価計算を学びますか。必修でしょうか、選択でしょうか。

○杉本産業高校定時制教務主任

定時制課程の方はご指摘の原価計算は4学年で入っております。

4学年であり、かつ希望した生徒が受講するという形になっております。

定時制の方は令和4年度入学生から、教育課程の改編をいろいろ行いまして、どうしても夜間の4時間しかない授業形態は全日制と比べると時間差がありますので、あえてその3年で卒

業できる仕組みから4年制に移行して、延長した上で専門の学習を多く学ぶコースというのを作りまして、その専門コースを希望した生徒が選択して受講するという立て付けになっております。

定時制としては今回生徒を迎え入れるといたしますか希望者をもって、そのカリキュラムを実施するというのは初めてになりますので、その教科書を実際に使用する感触については、事前の検討は十分しているのですが、実施した上で、何かまた改善が必要であれば、検討するという形にはなると思います。

定時制の生徒の特性でいきますと小学校中学校時代に不登校の経験があったり、学びに課題を持つ生徒も在籍しています。同じ原価計算であっても、どうアプローチするかという部分では、全日制における授業とは違う視点も持っております。

数多く計算をこなすという利点もありながら、ただ一方でその手前の知識として習得する時点でわかりやすさを求めるという点がどうしても定時制には大きくありますので、選んでいる教科書は違うのですが、そのようにご理解いただければと思っております。

○大下教育長

他にご質問ご意見等ございませんでしょうか。

ないようでしたら、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における令和7年度使用教科用図書について、原案のとおり採択するというところでよろしいでしょうか。

（教育委員 異議なし）

○大下教育長

それでは、承認し、採択いたします。

議案第33号 岸和田市立中学校における令和7年度使用教科用図書の採択について

○大下教育長

議案第33号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

議案第33号につきましては、岸和田市立中学校における令和7年度使用教科用図書の採択についてです。

岸和田市立中学校の教科用図書の使用について、教育委員会で採択するため、教科用図書選定委員会の答申を提出するものです。

この度、学習指導要領の趣旨を踏まえ、本市生徒の学習に最も適した教科用図書の採択に向け、慎重かつ丁寧に専門的な観点から調査・研究を行い、審議した結果として、教科用図書選定委員会より答申をいただきました。

答申を提出するにあたり調査研究を行ってまいりました経過についてですが、5月21日に第1回、第2回の選定委員会と調査員総会を開催しました。選定方針や調査研究の方法、日程等を確認し、調査員による調査研究を開始しました。5月27日からは教科書見本の学校回覧を行い、各中学校と中学校教育研究会における調査研究が始まりました。7月9日には、各調査研究結果が事務局に提出され、7月22日に第3回、23日に第4回の選定委員会を開催し、調査員による調査研究報告と選定委員による答申のための協議を行いました。これらの過程を経て今回の答申をいただいております。

審議では、全ての教科書発行者について検討し、結果的に全者とも推薦いただいておりますが、各者の特長をもとにメリハリある協議を通して特に岸和田市の子どもの学習に適しているものについてのご意見も出ております。

このあと、種目ごとに1者の採択をいただくこととなります。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○大下教育長

それでは、教科毎にそれぞれ議論を進めてまいりたいと思います。

まずは、国語の審議に入ります。説明をお願いします。

○藤井学校教育課指導主事

国語科は、東京書籍、三省堂、教育出版、光村図書出版の4者でございます。

4者とも子ども達の興味が沸く教材が多数盛り込まれており、また国語科の学びにおける工夫が凝らされておりました。

特に「学び方の工夫」という点では、各者、子ども達が主体的に学べる工夫がほどこされているという調査報告を受けております。

東京書籍は、各教材にある「見通す」で学習目標、「学習の流れ」や「てびき」で学習の進め方を確認し、これらを手がかりに生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がされておりました。

三省堂は、物語文や説明文での「学びの道しるべ」や「読み方を学ぼう」で、それぞれの教材に合った視点での読み方のコツやヒントがバランスよく書かれておりました。

教育出版は、教材を読み深めているための視点「学びナビ」を教材の前に示すことで、学びへの明確な視点をもって学習に取り組むことができるようになっておりました。

光村図書出版は、学習の手引き「学びへの扉」で学習の流れとポイントが一目でわかるようになっており、物語文、説明文ともに、段階を踏んで読み方が学べる工夫がされておりました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

今の時代ですので、二次元コード等、国語科にかかわらず、どの教科書も数多く掲載されていると思いますが、国語科の中で二次元コードが工夫して掲載されている教科書は、どの教科書かという意見は出ていませんでしたか。

○藤井学校教育課指導主事

国語科の中では、東京書籍、三省堂、光村図書出版の3者におきましては、どれも充実した内容の二次元コードが掲載されていると聞いております。

とりわけ東京書籍などは、様々なコンテンツが充実しているという報告を受けております。

○野口委員

国語科ですので、特に中学生ぐらいの年齢になりますと、広い範囲の語彙をしっかり身につけて欲しいと思います。語彙について、系統的に、そして身につけやすくなっている教科書はどれだったかを教えてください。また、文法は生徒に本当にわかりやすく身につけて欲しいと思います。文法を抵抗感なく子ども達が学べるような配列になっているような教科書はどれだったかを教えてください。

○藤井学校教育課指導主事

まず1点目、ご質問いただきました語彙に関してですが、調査委員、選定委員ともに、岸和田の子ども達は語彙力をより一層身につけていく必要があるという意見が出ておりました。

その観点におきまして、各者とも語彙の拡充のコーナーは多彩に設けられておりました。

東京書籍は「広がる言葉」、三省堂は「語彙を豊かに」、教育出版は「表現に役立つ言葉、理解に役立つ言葉」、光村図書出版は「語彙ブック」が巻末に設けられておりました。

とりわけ、光村図書出版に関しましては、本編の教材の中にも「語彙を豊かに」というコーナーが設けられており、語彙ブックを行き来しながら活用できるという点で、調査員からは、岸和田の子ども達に語彙を身につける上では使いよいのではないかという意見も出ておりました。

2点目の文法に関しましては、各者、必要な段階に応じた文法の配列になっております。

また、普段の授業では、先生方が作成した独自のプリントや副読本を使用することが多いのですが、その点に関しましても文法の配列は、4者とも問題はないと報告を受けております。

○和田委員

岸和田の子達には語彙力が求められているというお話だったかと思います。そこを伸ばしていくことを今までも取り組んできているのですが、子ども達に丁寧に学びを進められるようなものが入っている教科書というのはどの教科書になりますでしょうか。

○藤井学校教育課指導主事

先ほどの話と重複しますが、先生方からは、「語彙ブック」を使うことによって、常にそこを開いて、そこから言葉を選び出せることで、語彙に親しみやすく、また、活用場面も掲載されているので、それが岸和田の子ども達に使いやすいのではないかという意見を受けております。

○谷口委員

三省堂の「学びの道しるべ」、或いは教育出版の「学びナビ」に関してはどのような意見が出ていましたか。

○藤井学校教育課指導主事

どちらも、個別最適な学びには大変適しているというものでございました。

しかしながら、教材の前にあるので、おそらく、授業者や子ども達ともに賛否は分かれるであろうというのが調査員からの報告でございました。

先に中の詳細の部分を学んでしまうことで、読みが方向づけられてしまうという懸念もありますが、活用の仕方では、その内容にのっとって、学んでいけるという良さもあるのではという意見も出ておりました。

○谷口委員

そういう意味で、私が気になったところが、光村図書出版の内容で、国内の世界遺産を、2つの新聞の書き方で取り上げるという内容がありました。

今いろんな情報社会の中でいろんな情報が入ってくる中で、取り方によって受け取る側がいろいろ変わってくるという内容で、非常に感銘を受けました。情報やメディアの扱い方で、自身の考えをしっかりと持つという意味で、3年生の教科書の78ページから80ページまで載っているのですが、子ども達が記事をどう考えていくかということに非常にいい教材だと考えまし

た。

○植原教育長職務代理者

学習指導要領で、主体的・対話的で深い学び、3つの学びがあると思います。教科書検定では全てそれらが当てはまるものです。その中でも岸和田市の国語に対する実態や状況を考えれば、それぞれの教科書のよさがあると思いますが、発表段階や実態と考えた場合、選定委員会ではどのような意見が出ましたか。

○藤井学校教育課指導主事

岸和田の子ども達の実態を考えたときに、やはり読解力を身につけさせていきたいという意見が多くありました。

また、書く力も、「思っているけれど書けない」という生徒も多数見受けられるということで、語彙を獲得してさらに書く力も伸ばしていかなければならないという意見もありました。

その力を身につけるために、やはり語彙が充実しているというのも1つの魅力だという話も調査委員からは出ておりました。

また、光村図書出版の「ことの葉ポケット」というコーナーでは、ただ、対話的な学び、共同的な学びで話し合いをするのではなく、よりその時に適した理由であったり、展開の仕方なども細かく書かれているために、それを活用すると段階的に力が育めるのではないかという意見も出ておりました。

○植原教育長職務代理者

選定委員会では、岸和田市の子ども達の課題を見つめながら、どういうふうに展開していけばいいのかということで主体的・対話的で深い学びというものを話し合ってくれたわけですね。

○藤井学校教育課指導主事

はい。

○植原教育長職務代理者

わかりました。ありがとうございます。

○大下教育長

他にご質問等ございませんでしょうか。

いずれの者も十分に子ども達に配慮した構成になっていると私も思います。やはり教科書を各市町村でそれぞれに選ぶというのは、それぞれの地域の子供達に一番適した、また、合っている教科書を採択しようということだと思います。

その中で、かねてから岸和田の子ども達が一番課題として挙げられているのが、語彙や読解力が少し弱いのではないかとこのところ、今のやりとりを聞いておきますと、個別に別冊で語彙集である語彙ブックをつけておられて、それが学習展開、個々の語彙力を高めるということ以外にも共同的な学習にも資するという意味で、光村図書出版に優位性があるのではないかという流れだったかと思いますが、国語については光村図書出版ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

では、国語については、光村図書出版の教科書を採択いたします。

次は、書写の審議に入ります。説明をお願いします。

○東学校教育課指導主事

書写は、東京書籍・三省堂・教育出版・光村図書出版 以上4者でございます。

各者、日常生活や学習活動につながる内容を多く取り上げ、書写で学んだことを生かす工夫がなされていると調査員から報告がありました。

調査研究を進める上で、学習者が使いやすいという点や書写で学んだことを実生活に生かすという点が話題に多くあがっておりました。

使いやすさについては、教科書のサイズや厚み、レイアウト等、授業で取り扱うことを想定し調査が進められました。

学んだことを実生活などに生かすことについては、行書と楷書を使い分けるといった点について、三省堂と光村図書出版が充実しているという話が調査員からございました。

また、選定委員会では、子ども達が中学校で初めて学習する「行書」の特徴をしっかりととらえるために、多くの漢字が取り上げられていることが大切であるという意見が出されておりました。

○大下教育長

委員の方からご質問ご意見等ございませんでしょうか。

後半の説明ですが、多くの漢字が取り上げられていることでしょうか。それは行書楷書の使い分けに関することでしょうか。もう一度説明をお願いします。

○東学校教育課指導主事

子ども達が、毛筆で行書を学習した後に、行書の漢字が硬筆で多く取り上げられていることが大切だという意見が出されておりました。

○大下教育長

それでその後段の部分に関して、各者、何か特徴があるのでしょうか。

○東学校教育課指導主事

三省堂と教育出版では、毛筆で行書を学んだ後に、多くの行書の漢字が硬筆で取り扱われ、行書の特徴をとらえやすいのではないかと意見が、選定委員会に出されておりました。

○谷口委員

教科書のサイズで、三省堂が少し小さいのですが、それに対しては教えやすい、教えにくい、生徒達使いやすい、使いにくいなど、そのような意見はございませんでしたか。

○東学校教育課指導主事

東京書籍、光村図書出版はB5に近い大きさで、三省堂はB5、教育出版はA4の大きさを採用されています。光村図書出版には、書き込むことに特化した別冊の書写ブックがございます。

調査員からは、東京書籍や三省堂のようにコンパクトでシンプルなものが、実際の授業では使いやすいという意見が出ておりました。

○野口委員

小中学校における書写は、高等学校の芸術科の書道とは違って、やはり書くということが、自らの社会生活に活かせることが、とても大事です。書道の技術を高めるという面もありますが、書くことに親しんで、書くことに抵抗感なく、そして、日本語独特の形式である楷書行書は、社会人として身につけられるようにというのが大事なのかと思います。その点では、毛筆で行書の流れというのは、しっかりと身につけ、そしてそれを活かして、自分達がよく使う、

それこそノートであったり、手紙であったりなど、行書をあまり抵抗がなく使えるようになって欲しいと思います。

そういう意味で、学習の流れとして、使いやすいと思ったのは三省堂です。三省堂の流れは、使いやすいと確かに思いました。

生徒が行書にしっかり親しんでいけるという意味では、どの教科書が使いやすいというお話は出ていませんかでしょうか。

○東学校教育課指導主事

より実生活に近い形での楷書と行書を、日常生活であるとか、学習活動の場面を想定して、どちらがふさわしいかを考える、そのような活動は各者取り上げておりましたが、その中で、三省堂と光村図書出版では、目的や場面に応じて、楷書と行書のどちらがふさわしいかを考えるだけではなく、その理由についても、考える工夫がなされておりました。

また、実際に、自分でも楷書、行書を選んでみて、そして書き込む課題というのも設定されているという報告がありました。

○植原教育長職務代理者

学習の進め方や、これまで学んだこと、姿勢とか用具の使い方は、非常に毛筆にとっては初歩的な、基本的な要素であり、そういう一面から考察していった場合、筆の持ち方などをわかりやすく、また指導しやすいものはといった話題は選定委員会で出ていましたか。

○東学校教育課指導主事

特にそのような話題は取り上げておりませんでした。

○植原教育長職務代理者

見た感じでは、三省堂とか教育出版が非常にわかりやすいと感じました。マルをつけて姿勢を示している点ですね。1年生から見ると絵と写真が大きく示されています。長く使うものなので、大きいものがないのではないかと思います。

教科書の大きさではなくて、1年生から発達段階を考えた場合、非常に大きな写真が掲載されている点がいいのではないかと思います。

2つ目に、硬筆の書き方の例示ですが、楷書行書のひらがなの54表が東京書籍、光村図書出版に載っています。三省堂は都道府県名一覧で載せてくれています。岸和田市の子ども達にとってはどちらがいいのか思案します。一覧表がある方が見やすいという思いがあります。

先程、身の回りの題材について、実生活に沿ったものを探したいという説明を伺いましたが、年賀状・手紙・色紙・熨斗紙について、取り上げているページ数では東京書籍、教育出版が多いようです。大阪の関わり的人物については光村図書出版、教育出版、三省堂の順でした。

また、大筆、小筆、シャーペン、色鉛筆、フェルトペンとかいろんな種類がありますが、それらを取り上げていることも大事だと考えています。

○東学校教育課指導主事

やはり子ども達が、中学校で初めて学ぶ行書についてですが、子ども達にとって関心の高いものでありながら、子ども達は興味があるが、難しくて身につけたり、資料も覚えたりするのは時間もかかります。やはり毛筆でしっかりと筆脈や、点角の変化をよりしっかりとらえて、そのあとに硬筆でしっかりとその特徴をとらえるというのが、有効ではないかとの意見が選定委員会でも出ておりました。

○植原教育長職務代理者

ひらがなの54表はあるほうが良さそうですが。

○東学校教育課指導主事

選定委員会の中では、漢字の特徴というところで議論がされておりましたので、ひらがなの一覧表のことについては、議論としては出てこなかったです。

○和田委員

書写と言えば、国語との繋がりも大事になってくるのかなと思うのですが、どのような意見が出ていましたか。

○東学校教育課指導主事

各者、国語科、或いは他教科との繋がりも意識して作られているという調査員の報告がございました。

中でも、学習者にとって目次というのは、見やすくすっきりされているものがあるという調査員の意見があり、その中で、国語や、他教科との連携について明記してあったのは、三省堂と光村図書出版でした。

○大下教育長

行書については、中学生になってから非常に興味関心を持ちやすいと同時に、なかなか習得が難しい。そういう意味では、まず毛筆で、点角の変化というのをしっかり身につけた上で、硬筆に入っていくことが重要であるとの説明頂きましたが、それであれば、各者の教科書にはどのような特色あるのでしょうか。

○東学校教育課指導主事

先ほど、三省堂と教育出版が、行書の漢字を硬筆での取扱いがあったと報告させていただきましたが、三省堂では見開き2ページにわたって、漢字あるいは熟語について取り扱いがあります。教育出版は行書の特徴を見開き1ページで記載がございます。

○大下教育長

もう一度、頭のなかの整理が必要なのですが、毛筆を学んだあとに硬筆に入っていく上で、今2者の例を挙げていただきましたけども、それはどのようなことでしょうか。

○東学校教育課指導主事

この2者がより多くの行書の漢字を扱っていたということです。

○大下教育長

実際に学校で学んだことを、自分の日常生活に活かしていくことも非常に大事なのですが、そういう実際の使用例の紹介なり、こういう場面で硬筆、こういう場面では行書、こういう部分では楷書というふうで紹介されている例や特色はありますか。

○東学校教育課指導主事

例として具体的に上げるというよりは、子ども達が自分で考えるというところを各者扱っておりました。

こういう場面では、どちらがふさわしいだろうかというふうなことを、どの者も考えさせるような、そんな取り扱いでございました。

例えば、教育出版では、主に学校生活における場面の写真を取り上げて、まず、どのように、書体を選ぶか、どのように筆記用具を選ぶかという取り扱いがございました。

自分で書体を選んで書く欄が実際にありましたのは、三省堂と光村図書出版でございました。

○大下教育長

学校生活の面で具体的に生徒に考えさせるのが教育出版であったとのことでしたが、三省堂と光村図書出版はどのようになっているのでしょうか。

○東学校教育課指導主事

実際にワーク形式で、自分で書いてみる欄があるのが、三省堂と光村図書出版でした。

他の2者については、考えさせて、気づかせるというような取り扱いでした。

岸和田の子ども達にとって対話、自分で考えたことを、どうしてそう考えたのかという理由も含めて、対話を通して学んでいくということも非常に大切です。

そのような面では、このときは楷書がいい、このときは行書がいいと選ばせるだけではなくて、どうしてそう考えたのかということを考える、ということが非常に大切になってきます。

○野口委員

中学校では、行書がほぼ最初に扱われますので、それをわかりやすく子ども達は見て、実際に実習できるという観点でいくと、光村図書出版は最初に出てくるのが「緑」という文字で、見開きの両方に比べてあり、教育出版だと、平和の「和」という字がこのように比べてあります。もう1つの東京書籍は、「東」という字、こちらは非常にわかりやすく同じ字を左右に比べていますが、実際に行書を初めて書こうとしたときに、子ども達の机を考えると、この状態で広げるとはちょっと無理があります。三省堂だけが、1つのページの中に、行書と楷書が、楷書は非常に小さいですが、行書と楷書の違いが一目見てわかります。実際に指導するとしたら、使いやすいという印象を持ちました。

○大下教育長

いずれも本当に良い点ばかりが挙げられまして、選択に難しいところなのですが、全体の議論を通してお聞きをしますと、特に中学校における書写というのは行書ということが非常に大きなテーマになって、その中で、多くの例が引いてある、或いは、実用的なものについても記載が多い。さらには、今、野口委員からございましたように、子ども達が楷書との関係で比較しやすいのは、実際授業現場で使う上では、同じページに載っているのがいいのではないかというご意見もございます。本当に甲乙つけがたいのですが、三省堂というご意見が、私としては多かったというふうに理解をしております。

書写については、三省堂ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

では、書写については、三省堂の教科書を採択いたします。

次は、地理の審議に入ります。説明をお願いします。

○茂木学校教育課指導主事

発行者は東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版です。選定委員会では、主に2つのことについて話が出ていました。

1つ目は、資料が子ども達にとって、興味関心が持ちやすいかという点です。いずれの者も大きな写真を使っていたり、様々なグラフを採用していたりと工夫されていました。その中でも、東京書籍では、大きく見やすい写真や挿絵が豊富にあり、興味が持ちやすいということ、帝国書院では、日本の諸地域を学ぶ上での導入地図は子ども達にとって、地域の概観がわかりやすく、興味を持ち

やすいという話がありました。

2つ目は、課題解決学習の取り組みやすさという点です。どの者も単元の終わりには、まとめと振り返りが用意されており、単元で学んだことをまずは自分でまとめ、そして協働的な活動につなげるという流れになっておりました。その中で、日本文教出版では、「議論してみよう」というコーナーで、協働的な課題解決学習に取り組みやすいということ、帝国書院では、アクティブ地理というコーナーで、さらに学習内容に踏み込んだ協働的な課題解決学習がなされるようになっており、子ども達が興味を持ちやすいという話がありました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

東京書籍と帝国書院では非常に資料が多いとのお話が出ましたが、その見やすさやわかりやすさについての調査員からはどのような意見が出ておりましたか。

○茂木学校教育課指導主事

その2者についての見やすさという点ですが、例えば、外国の学習をするときの導入ページでは、2者ともに大きな写真を多数取りそろえておりました。

その中で、帝国書院はそこに地図、資料を合わせて入れており、どの地方がどのような生活をしているのかということ写真を写真とともにリンクされているというところに特徴がございました。

また、日本の諸地域の学習前の地域の外観を、名勝や特産品などを載せたイラストを載せていることによって、子ども達にとって、外観が掴みやすいというような特徴があり、それは帝国書院だけの特徴となっております。

○大下教育長

SDGsに大きな関心が寄せられています。地理学習の中でも環境問題の取り上げ方というのが非常に重要だと思っています。

そのような中で、従来の三大公害病だけではなく、アップツーデートな環境、或いは公害に関して学べるものがふさわしいと思いますが、環境、或いは公害という問題に関して各者特色ございますか。

○茂木学校教育課指導主事

どの者も観光における景観維持というものは取り扱っておりましたが、とくに帝国書院の方では、さらに観光公害というオーバーツーリズムの問題を取り上げておりました。

取り上げている箇所が、岸和田市の子ども達にとっても身近な京都府の問題を取り上げておりましたので、より身近に考えられる内容になっているのではという意見が出ていました。

○植原教育長職務代理者

学習指導要領では社会に見られる課題解決があると思います。教科書の中では地図を活用しながら知識理解が中心になりますが、1点目に地図の見やすさ、例えば教科書内で中学生の発達段階を考えた上で地図の見やすさは各者でどのような違いがあるかという点と、2点目は、その課題解決を実践するための学習指導を主体的にするための配慮、例えばその配慮のための資料、コラム、その使いやすさは各者どのような内容か教えてください。

○茂木学校教育課指導主事

1点目の地図に関しましては、どの者も取り扱ってございました。先ほどもお話しいたしました。東京書籍は各単元の導入時で、地図を扱っておらず、残りの3者については地図と写真をリンクさせております。

その中でも、より大きな地図で見やすく取り扱っているのが帝国書院でした。

また、課題解決型学習につきましても、まとめと振り返りのところでは、自分で考え、そしてそれから、共同的な学習につなげるという点で、各者いずれもコラムで、より考えさせるというような記事を扱ってございましたが、帝国書院のアクティブ地理というものは、さらに段階的に考えられるような作りとなっております。

○植原教育長職務代理者

そのコラムや郷土、近畿地方などの身近な教材を扱っている点はどうなっていますか。

○茂木学校教育課指導主事

身近な教材では、先ほどの内容と重なりますが、京都府の内容を扱っている帝国書院がより課題解決型学習を使いやすい中身になっておりました。

○谷口委員

デジタルコンテンツの使い勝手等については、各者どうなっていますか。

○茂木学校教育課指導主事

デジタルコンテンツに関しましては、どの者も多数の小テストやワークシートなどを取りそろえておりましたが、その中でも様々な観点からデジタルコンテンツを準備しているのは東京書籍と帝国書院でした。

○植原教育長職務代理者

人権尊重の立場から、人権の配慮、国際協調等、人権問題に関してどのような取り扱いでしたか。

○茂木学校教育課指導主事

幅広く取り扱っていたのは、日本文教出版で、フェアトレードや性的少数者にも配慮した社会といったところを扱っていました。

○谷口委員

東京書籍と帝国書院は資料が多いということですが、資料が多いというのは功罪両方あり、多すぎると読む気がなくなってしまうたり、見る気がなくなったりするところがあります。図や写真は視覚的に入りますが、その辺りの意見は出なかったのでしょうか。

○茂木学校教育課指導主事

帝国書院の方がより大きく資料の方は取り扱って載せているという意見が出ており、逆に東京書籍の方は余白が目立つというような意見が出ておりました。

○大下教育長

地理では、固有名称を使ったり、独特な用語を使ったり新しい言葉が出てくることが多いと思いますが、用語解説において何か特色はありますか。

○茂木学校教育課指導主事

どの者も用語については丁寧に扱ってございましたが、その中でも特色があり、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者は、用語については、巻末にまとめて解説を載せております。

それに対して、帝国書院は、その用語が出てきたページに解説が載っておりますので、子ども

も達にとってはわからない言葉がそのページですぐ確認できるという利点があるのではという意見が出ておりました。また、帝国書院は巻末には事項索引のみが載っており、索引からも用語についてすぐに調べることができるようになっていました。

○大下教育長

学校現場で子ども達が、用語の理解をする上で、巻末にまとまっておりそこを見れば必ず何らかの解説が載っているという安心感がある方がいいのか、それぞれの学習のタイミングで、すぐに参照できる各ページにあった方がいいのか、そのあたり学校現場で教えている教員の立場からするとどう評価されますか。

○茂木学校教育課指導主事

やはり、子ども達が用語に、最初に出会うのは本文ですので、やはり本文のページに載っている方が、指導もしやすいという話が出ておりました。

○大下教育長

それでは、今の議論をいろいろお聞きする中で、資料の見やすさ、写真、特に地図資料の豊かさという点であるとか、或いは子ども達に身近な京都府を取り上げて、環境問題、特に新しいオーバーツーリズムの問題について触れているという点。さらには主体的な学びということに関しても、アクティブ地理ということで、段階的に子ども達に考えさせる工夫が凝らしてあるという点。さらには用語については、学校現場で実際学ぶ上では、各ページに解説がある方が子ども達が理解しやすいであろうという点、そういうご意見を総合的に勘案しまして、地理については帝国書院ということではよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、地理は帝国書院ということで採択したいと思います。

次は、地図の審議に入ります。説明をお願いします。

○茂木学校教育課指導主事

地図の方は、発行者が東京書籍と帝国書院の2者でございます。先日の選定委員会では、主に資料の取り扱いやすさについて話が出ていました。東京書籍では、現在と過去の2枚の地図を比較しているページが複数あり、思考力を高められる内容となっているという話がありました。帝国書院では、鳥瞰図が非常に見やすく、世界や日本の地域の鳥瞰図には名物や名所、イラストなども描いてあり、子ども達にとって、興味を持ちやすいという話がありました。また瀬戸内海周辺の歴史や過去の五街道の様子も鳥瞰図でかかれており、こちらも興味関心をもちやすくなっているという話がありました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

地図は何ととってもすぐ調べられるというところ、ピンポイントでどこかすぐわかることがポイントだと思いますが、2者の中で、調べやすさについてはいかがでしょうか。

○茂木学校教育課指導主事

一般地図におきまして、帝国書院は色合いがはっきりしており、地形の起伏がわかりやすいという特徴がございました。また、県境や道路などの線に極力かぶらないように地名等の文言が書いてある、重なった場合には、読みやすいように、文字が優先された記載になっていると

いう特徴がございました。

○大下教育長

念のための確認です。地理と地図は教科書会社が同じであっても違って、特に問題ないという理解でしょうか。それとも同じ方が望ましいということでしょうか。

○茂木学校教育課指導主事

問題はございませんが、帝国書院の教科書には、地図帳活用という文言が記載されており、そこでは地理と地図帳の結びつけというものが関連付けられております。

○大下教育長

冒頭の説明で、帝国書院の方には鳥瞰図があるということですが、東京書籍にはないので、あつたように思いますが。

○茂木学校教育課指導主事

東京書籍の方にも、鳥瞰図の方はございます。例として19ページ。帝国書院の方では29ページが同じ地域の鳥瞰図となっております。東京書籍の方では主に地形の変化がわかりやすいようになっております。また、海の深さも鳥瞰図でわかるようになっております。

帝国書院は海の深さはわかりませんが、それ以外に名所や名物などがイラストで記載されております。そういった特徴がございます。

○和田委員

デジタルコンテンツについて、ここに書かれている以外にも活用方法、特徴などがあれば教えてください。

○茂木学校教育課指導主事

各者それぞれ特徴的なデジタルコンテンツがございまして、東京書籍は「マイグローブ」というデジタル地球儀というものがあり、タブレット上で地球儀を見ることができます。また、4種一般図、国土地理院や夜景等、地図の種類によって見分けることができるようになっております。

帝国書院では、地域見える可ジオグラフというものがあり、日本の地図上のある様々なテーマに合わせた数値の変化を立体的なグラフで表すといったデジタルコンテンツがあります。イメージとしましては、大雨が降ったときに天気予報で降水量を示すときに日本地図上でどこにたくさん雨が降ったのかというようなものを示すグラフと、ほとんど同じようなものなど、SDGsのテーマに合わせたものが多数扱われております。

○谷口委員

グローバル化の中で、世界の中の日本が、よりわかりやすく表記しているのはどちらなのかということと、我が国の固有の領土、或いは領土問題のところ、日本の国のその地域がどこなのかということを知りやすく表記しているのはどちらなのか教えてください。

○茂木学校教育課指導主事

領土につきましては、帝国書院の方は81、82、83ページ、それぞれの地域に領土のことについて掲載されております。また、巻末の171ページに領土についてのまとめが掲載されております。帝国書院は81、82、83と、3ページにわたって、それぞれの島のある場所に説明があります。

東京書籍に関しましては、巻末の171ページにまとめて掲載されております。東京書籍の171

ページにも、日本の領土領海排他的経済水域の記載がありますが、帝国書院もより大きな図で巻末に領土についての説明が記載されています。

○大下教育長

いいところばかりなので、なかなか選びにくいのですが、前回の選定の際に、やはりポイントになったのが見やすさでした。今回、冒頭の方で、字が重ならないように工夫をしている、重なるところについては色合いを分けて見やすくしているということを説明して頂きました。その点に関して、言葉だけではなしに、具体的に両者の教科書を双方見比べた場合に、こういう違いがあるということで教えていただけませんか。

○茂木学校教育課指導主事

東京書籍に関しましては 70 ページ、帝国書院につきましては 88 ページをお開きください。霧島の周辺でございます。

東京書籍に関しましては、霧島の周辺の大隅国分寺跡という地名が高速道路の線と重なって表示されております。

それに対して、帝国書院に関しましては、そのあたりの表示が高速道路の線が下に薄く書いている状態で上に霧島というふうな形で文字を優先した形で記載されております。

○大下教育長

他にご意見ございませんでしょうか。

鳥瞰図でいろいろイラストが書かれていたり、少しトピック的に名物が書かれている点、色合いや見やすさという部分やコントラストの面において、帝国書院の方が見やすいと感じました。

決め手としてはなかなか難しいのですが、いくつかの点で帝国書院の方に優位性があるのではないかと思います。必ず一緒になければならぬということではなのですが、今回、地理に帝国書院を採用ということもあり、関連性や繋がりが深く結びつけやすいということで、今回は地図についても帝国書院ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、地図は帝国書院ということで採択したいと思います。

次は、歴史の審議に入ります。説明をお願いします。

○山本学校教育課指導主事

社会・歴史的分野は東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版社、日本文教出版、自由社、育鵬社、令和書籍について調査したことを選定委員会で話し合いました。

調査員の調査でも選定委員会でも、歴史的分野では教科書に掲載されていることを覚えたらよい、重要項目についてただ暗記すればよい、ということではないと共通の認識となっていました。起こった事例について、なぜそのようになったのか背景や原因を、主体的に考え、課題について調査し、調査したことを整理し協働的な学びや対話を通して深い学びとすることが大切であるという話になりました。

このようなことから、課題解決的な学習についてや、個別最適化や協働的な学びについて、補充的・発展的な学習についてなど調査員や選定委員会で議論されました。

課題解決的な学習については各者とも課題が設定されており、生徒が課題に向けて取り組むような配列となっております。補充的・発展的な学習については、東京書籍は補充的な学習・発

展的な学習につながるように、基本的な技能を様々な習得・活用場面を通して身に付けることができる問題が設けられ、章末ではシンキングツールを用いて、探求課題について考えることができるように配慮されていると報告がありました。教育出版は、補充的な学習・発展的な学習につながるように、章末で知識・技能の習得、資料の読み取り、主体的に時代の特色を考えられることができるように配慮がされていると報告がありました。帝国書院は補充的な学習・発展的な学習につながるように、章末で知識の習得を確認し、思考・判断・表現を意識させたり、他者との対話で内容を深めたりすることができるような配慮がされていると報告がありました。また、学びを深めるためのコラムなどが充実しているという報告がありました。山川出版社は、補充的な学習・発展的な学習につながるように、まとめの部分も書き込みや調べ学習を中心とした取り組みを促すものとなっていると報告がありました。日本文教出版は補充的な学習・発展的な学習につながるように、章末に年表や地図を活用する問題が設けられ、「学習を振り返ろう」では主体的に学習に取り組めるように配慮がされていると報告がありました。自由社は、章末で、「調べ学習」や「復習問題」、「時代の特徴を考える」など学習内容の習得や補充を行うように配慮がされていると報告がありました。育鵬社は章末に年表や資料が掲載されており、学習内容の習得や補充を行い、話し合い活動で主体的に学習に取り組めるように配慮がされていると報告がありました。令和書籍は章末で表にまとめたり、年表に書き込んだりと学習内容の習得や補充につながるような配慮がされていると報告がありました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○野口委員

自ら学んでいくということで、歴史の学習に取り組んで欲しいと思います。どの教科書も活動の1つとして身近な歴史を自分達で探求していこうという部分があると思いますが、それぞれの教科書にどのような特徴があるのか、また子ども達がより主体的に学習しやすい特徴など、ご意見があったとしたら教えてください。

○山本学校教育課指導主事

身近な歴史について学ぼうというのは、どの者も冒頭に数ページあり、そこで詳しく述べられています。最後には子どもたち自身が発表するような構成となっている教科書が多かったと選定委員会で話しておりました。

○野口委員

私自身が感じたのは東京書籍において、自ら考えて調べて、そして子ども達がプレゼンする過程を丁寧に押さえている点、学習の最初にできたら、子ども達がより積極的に学んでいけるのではという感想を持ちました。

もちろん他の者も、詳細な手順を示してくれていて研究していく方法が生徒達にはわかりやすいのではと感じを受けましたし、それぞれ、他の者につきましても、工夫して生徒が取り組むというところを丁寧に示してくれていると感じました。

○谷口委員

デジタルコンテンツの量ですが、量だけじゃなくその内容が、自己学習、或いは自分でいろいろ考えたりできるようなコンテンツ、中身がそれに伴っているという点に関してはいかがでしょうか。

○山本学校教育課指導主事

個別最適な学びを支援する方法の1つとして、動画であったり、資料、ワークシート、リンク集、クイズ、そういったもののデジタルコンテンツが充実している方が良いという話が出ておりました。

例えば動画では、遺跡の上から中に入っていく映像を用いることで、実際に行けない部分をデジタルコンテンツで補充させるなど、とても充実しているのは、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、この3者は他の者に比べてより充実していると話がありました。

また、掲載している箇所ですが、東京書籍と日本文教出版については、ほとんどのページにあるので、1人1台の端末で、すぐに、個々の思いで調べ、深い学びにつなげることができるといった話がありました。

○大下教育長

今の後半の説明に関して、東京書籍と日本文教出版がどう違うのか、どう一緒なのか、具体的に教えてもらえませんか。

○山本学校教育課指導主事

例えば東京書籍の26ページをご覧ください。「古代文明の起こりと発展」というところの横に二次元コードがあります。次のページの28ページにも同じように二次元コードがあります。

このように、今日はこの単元を学習するということに、1人1台端末があると、すぐに二次元コードを読み込むことができるため便利であるというような調査が出ておりました。他者は、まとめのところや章の初めのところであり、そこに戻って調べないといけないので、すぐに調べられる方がいいという話が出ておりました。

○和田委員

東京書籍、日本文教出版、帝国書院が、ページの右1面に時代が書かれていて、今学んでいるところが、色が変わっており、自分が今何を学んでいるか、どんな時代を学んでいるのかがよくわかって、それはすごくいい点だと思いました。振り返りと探求的な学びについては、各者どのようになっていますか。

○山本学校教育課指導主事

各者とも探究的な学びについてはそれぞれ工夫があります。それ以外に、シンキングツールを設けている者もあり、様々な情報を整理する、分類する、発表する際にそのシンキングツールは効果的である、といった話もありました。シンキングツールが充実していたのは東京書籍になります。

○植原教育長職務代理者

人権の扱いや国際平和との関係はどうか。国際協調や国際平和との関係で各者いかがでしたか。

○山本学校教育課指導主事

人権の扱いについては、例えばアイヌや琉球など、各者ともページ数に差はありますが、掲載されておりました。

また、国際協調についても、外国の方を助けた日本人の話などのコラムは各者とも掲載されております。

○植原教育長職務代理者

その部分では差がないということでしょうか。

○山本学校教育課指導主事

はい。

○植原教育長職務代理者

今回の教科書を読んでいくと、最初に歴史への扉、とらえ方、調べ方、歴史との対話といった教科書もありましたが、岸和田の子どもの特徴を考えると、どのような入り方がいいかという点を考えた場合、どこの教科書がよかったとか選定委員会では意見が出ておりましたか。

○山本学校教育課指導主事

岸和田の子ども達は、対話や話し合いをする力の向上が課題だというような話は出ておりました。その課題の解決に向けた項目をより多く設定しているのが、東京書籍という調査結果になっております。

また、まとめや章末でも、どの者とも「話し合いましょう」というものはありますが、内容でよく使われているのも東京書籍という調査結果が出ておりました。

○大下教育長

他にご意見等ございませんでしょうか。

今、報告を受けましたが、基本的に歴史は暗記科目ではなくて、新しい学習指導要領に沿って、主体的に自分で考えてしっかりとそれをまとめて、他の人と意見を交わしながら取り組む過程が大事であり、それが深い学びに繋がるものであるということです。野口委員からもご意見ありましたように、東京書籍の場合は、みずから考え調べ、それをプレゼンにつなげていくという過程が非常に詳しく記載をされているという点、さらには自己学習、自分で考えをまとめて置いて、情報を取得しなければいけません、そういうところの二次元コードが数多く採用されているという点、見やすさという意味ではこれは日本文教出版も同じですが、東京書籍の場合は、そのページごとに必要な二次元コードが付されているという点、さらには、振り返り探求的な学びをするため、物事を整理分類発表していく過程で、重要な役割を果たすシンキングツールが多く取り入れられている点、そして、対話を促すような記載が教科書の本編にも記載されているという点で、東京書籍がやや優位性があるのではないかと理解をしました。歴史的な分野については、東京書籍ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、歴史的な分野は東京書籍ということで採択したいと思えます。

次は、公民的分野の審議に入ります。説明をお願いします。

○関根人権教育課指導主事

公民的分野に関しましては、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の6者です。調査員の報告或いは選定委員会等でご報告させていただいた内容について、本日、特徴的な部分を、各者のご報告をさせていただきます。

まず、東京書籍ですが、2点ございます。各章の導入部分で、学習内容に興味関心を持たせるような工夫が見られました。自分ごととして学習内容にとらえさせるようなページ数がございました。2点目は、二次元コードが多数掲載されていて、見開きに1つはデジタルコンテンツへのリンクが設定されているというところです。

続きまして、教育出版です。各章の導入部分に関しまして、生活体験から学習内容の問題意

識を持たせるための書き込み式の学習というものが設定されておりまして、生徒が見通しを持って学習に取り組めるという工夫が見られました。2点目は、巻頭でSDG sの紹介がございまして、持続可能な社会に向けての特設ページが設けられておりました。また、各章のまとめにも、SDG sに関するページがございました。

続きまして帝国書院ですけれども、2点ございます。各章の導入部分におきまして、イラストを読み解く学習活動というのが共通して設定されておりまして、学習内容に関する興味関心を高めて、学習の見通しを立てやすくする工夫が見られ、統合的な学びへとつなげることができるといったところがございました。2点目は、デジタルコンテンツに関しまして数多くのコンテンツがございまして個別最適な学びを行うという部分についての支援を行うことができるという特徴がございました。またそれぞれのコンテンツは、教科書の学習内容に、非常にリンクしていて、家庭での自主学習の充実にもつなげていくことができるというところでございます。

続きまして、日本文教出版ですが2点ございます。1つは、各章の導入部分で、学習内容と生徒の生活を結びつけるための漫画が掲載されておりまして、生徒にとって取り組みやすくなるような工夫が見られました。2点目は、先に二次元コードが掲載されておりまして、コンテンツのある場所ごとにマークがあるというところで、学習者が情報にアクセスしやすいというところがございました。

続きまして自由社ですけれども、各章の導入部分で、これから学習するテーマについて、生徒へ興味づけを行うための文章が掲載されておりました。2点目ですが各章ごとに、「もっと知りたい」というページを設けておりまして、発展的な学習につなげたり、家庭学習につなげたりするということがしやすい工夫が見られました。

最後に育鵬社ですが、各章の導入部分におきまして、ペアやグループで取り組むことができる学習活動が設定されていて、興味づけがしやすいという工夫がございました。2点目は、巻頭と巻末にSDG sについての記載がありまして、様々な具体的な事例を通して学習ができるように工夫がされておりました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

各者ともお聞きしましたら、SDG sなどに力を入れているのがわかるのですが、そのとらえ方が、子ども達は自分に置き替えて捉え、それを考えるような教材にしている部分についてはいかがでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

生徒が興味関心を持って学習に取り組む、自分ごととして学習に取り組むというところで、調査の方では、帝国書院の教科書の記述の中で、「アクティブ公民」という部分がございます。1例を申し上げますと、「企業と生産」という学習におきまして、教科書の133ページからの部分に、経済活動について主に扱っている部分ですが、パン屋さんを作ろうという内容で、パン屋さんになったらどのようなことをする必要があるのか、出店計画であるとか、ライバル店に対抗するためには、従業員を募集するにはといった部分で、子ども達が実際にそのような役割を担った際には、自分ごととして内容を理解していくのかという工夫が見られるのではないかと

という調査員からは報告がありました。

○植原教育長職務代理者

まず1点目ですが、学習指導要領では、子ども達が問題意識や課題意識をもたせることが重要です。導入部分では、体験、特に公民的分野ではその必要性が高いと思います。そこから、入っていける教科書について選定委員会で意見が出ていましたか。

もう1点は、人権尊重について、憲法について大事なことだと思います。平等権、自由権、社会権、参政権、プライバシー、環境権という問題や自己決定権とか最近よく言われています。現代社会におけるその取り扱いに関しては、どの教科書が教えやすくなっているのでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

まず1点目の学習の見通しや導入部分としての子供達の興味づけという点におきましては、各者とも非常に工夫が凝らされていると調査員の方から意見がありました。

その中で、東京書籍ですが、例えば選挙の部分では、実際に投票する場合、自分達が投票するのならどの候補者を選ぶのかというように興味を持って学習に取り組むという工夫がありました。

同じような特徴があるのが、帝国書院で、実際に地方自治において市長を選ぶのなら、どの市長候補を選ぶのか、A候補者を選ぶのかB候補者を選ぶのかという特徴がございました。

加えて、最後のまとめにおいて、学習を終えた後に、振り返って学習内容を踏まえた上で、A候補者を選ぶのか、B候補者を選ぶのかという最初に立てた問いに向けて、興味を持ちながら学習を進めていくという特徴が見られるという報告でした。

○植原教育長職務代理者

他の者はどうでしたか。

○関根人権教育課指導主事

教育出版におきましては、自分達の生活体験から学習の見通しを持たせるという点で、身近な話題から興味を持って進めていくという特徴がございました。

日本文教出版におきましては、冒頭にも申し上げましたが、生徒の生活と結びつけるためには、この単元で学習する内容がどのようなものなのかというイメージを視覚的にとらえやすいような工夫がされておりました。

自由社におきましては、導入の部分でこれから学習するテーマについて、こんなことを学習しますという文書載せて興味を持たせる工夫が見られました。

育鵬社におきましては、ペアやグループで取り組むことができるような学習活動を一番始めに設定していて、そこから学習内容に興味を持たせていくという構成となっております。

続きまして2点目の新しい権利、人権については、どの者も社会の変化に対応した新たな視点として、それまでのアイヌ民族であるとかハンセン病だけではなくて、同性婚を取り上げたり、或いはLGBTQの問題を取り上げたり、内容は、どの者も今の新しい人権についてしっかりと紙面を使ってコラムや本文で触れておりました。人権の部分については、どの者も偏りが無いように編集されていると調査員の方からも聞いております。

○植原教育長職務代理者

子ども達の発達段階を考えた場合、調査員からは何か意見がありましたか。とくに新しい人権についてどうでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

新しい人権を考えるうえで、人権を支える法的根拠という部分で、帝国書院等は、最後の巻末に、新しい法律や法規について積極的に掲載をしております。授業において、そういった新しい権利等について扱った後に、それを支えるための法的な根拠という部分をしっかりと説明ができる教科書の構成となっていると調査員から聞いております。

○大下教育長

今、お話のあった新しい動きに呼応して、いろんな法令規則が設けられますが、行政で一番困るのは法律を読みこなすことが大人でも非常に難しいことです。帝国書院は後ろに、個別の法規について例示をしていますが、中学生にとってこのような資料があることの功罪や先生方が授業をするうえで、中学生にどうこれを活用していくのか。或いは、自分でどう学んでいくのか、という点で、何か考えられますか。

○関根人権教育課指導主事

法律の部分で詳しく載っている部分であるとか、或いは量が多いというところに関しましては、授業をする上では、たくさんの資料、或いは多くの写真等の中で、その中から取捨選択をして選んでいくことができるというところで、その材料が多く掲載されているというところは優位性があるのではないかという意見がありました。

また、たくさん載っていたり、充実していたりすることで、家庭学習で自学自習をする際にも、その中から探究的に学びを深めていくことができるという点では優位性があるのではないかとの意見がありました。

○大下教育長

各者見比べてみたのですが、結構、法規を載せていますよね。何か帝国書院と違うところはあるのですか。

○関根人権教育課指導主事

例えば、パリ協定、気候変動に関して、昨今のSDGsに関連してですが、気候変動のパリ協定であるとか、或いはバリアフリー新法、障害者のそういった自立を促すようなところや、SDGs等の絡みの中での説明など、授業の中で扱いやすいなどの意見が出ておりました。

○植原教育長職務代理者

帝国書院は平成31年アイヌ推進法が一番新しい法律で抜粋しています。教育出版の方は、令和3年の法律でバリアフリー新法が記載されています。新しさでいうと、法律というのはほとんど変わっていきますが、令和3年の新法が載っているということは活用しやすいのではないのでしょうか。そういう意味では、資料の新鮮さは大事のような気がします。出版されても1年、2年で古くなってしまいます。そういう視点も必要だと感じます。選定委員会でこの点に関する意見は出ていませんでしたか。

○関根人権教育課指導主事

話し合いの中でも、法規の部分については、意見は出ていましたが、ここに載っている法令についてはあくまで法律の条文の中の一部というところで、抜粋になってしまっているというところで全文ではないのです。

全文であるとか、或いは非常に詳しいものというところでは、各者とも様々な工夫をされており、二次元コードを法律の条文の法令集を冒頭に載せている出版社も幾つかあり、東京書籍、

教育出版、帝国書院に関しては、冒頭に二次元コードを設けて、抜粋したものより詳細のものが見られるような工夫が見られました。

○植原教育長職務代理者

二次元コード等で、子ども達が資料を検索すれば、一番新しい法律も載っているということでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

この二次元コードからはより詳しいものは出ますが、更新されることになれば新しいものにアクセスすることが可能になるかと思います。

○谷口委員

少し違う話になりますが、ウクライナが侵略されているということについては何か今回の選定委員会ではその辺の意見はいかがですか。

○関根人権教育課指導主事

調査員の報告の中では、そういったウクライナについての部分と、教科書内容の記述についての部分の調査を行ってはおりました。

○谷口委員

政治的な問題はなかなか難しいところがあるとは思いますが、法の話で民主主義という語が出ていたので、そういうことも中学生になれば、指導するのは必要なことなのではと考えます。

若者だけでなく、大人もそうですけど、政治離れが非常に多い中で、先ほどお示しいただいたような、誰を市長に選ぶとか候補者の公約の見方とかいうのを、東京書籍と、帝国書院が載せていたというのは、非常にいい視点で、その公約はどういうことを意味しているのかを子ども達に考えてもらう意味では、非常にいい教材だなと感じました。

○野口委員

公民の場合は、これからの社会を生きていく子ども達ということで考えていかないといけないと思います。選挙権が18歳からになって、非常に身近な問題になってきたということ、或いは裁判員制度は、昔はなかったのですが、成人であれば、誰が当たるか誰に連絡来るかわからない中で、裁判員を誰でも引き受けていかなければならないというのは本当に最近の社会の違いだなと思います。

例えば、帝国書院の「アクティブ公民」では裁判員制度について、詳細に述べており、生徒達に、みずから考えさせているところが見られました。選挙権の問題については、東京書籍では18歳選挙権の配慮ということが記載されています。これからの課題について生徒達に、無理なく理解させる工夫をされているとは思いますが、間もなく大人になって、そして自分達の問題として考えていかなければならないというような課題について、生徒達に抵抗なく学ばせていけるのはこういう教材だなというような話は出ていましたか。

○関根人権教育課指導主事

課題解決型の学習といいますか、各者とも非常に工夫を凝らして作られていると調査員の方からも報告がございました。その中でも「アクティブ公民」を載せている帝国書院ですが、最後の巻末に、章立てを行って、課題探求学習というページを設けています。

その中で、課題を含めて、資料を探し、考察しレポートにまとめるという活動が、最後の教科書のゴールとして設定されております。それに向けて、各章ごとにその「アクティブ公民」

というような形で、課題解決型の学習を行っていきながら、最後のゴールで自分で課題を見つけて、解決していくという探求課題に向けて力をつけていく教科書づくりがされているという報告がございました。

○野口委員

課題探求学習の章、これは子ども達が積極的にみずからいろんなことを考えて、学習していける部分なので、これはすごくいい点だと思って見せてもらっていますが、いかんせん巻末にありますので、実際問題、地理の学習を岸和田の子ども達が進めるにあたって、岸和田の子ども達の状況について知りたいのですが、ここをしっかりとやっていける時間的な余裕というのは大丈夫でしょうか。

○関根人権教育課指導主事

決められた授業時数の中で、計画的に学習を進めていくことで、教科書の内容、或いは学習活動を進めていくことは可能です。

○大下教育長

様々な意見、それから説明もお聞きをしました。

その中で、子ども達は、なりたい職業の中にケーキ屋さんとかパン屋さんと言うことがあります。実際の出店にあたっては、労働問題とか立地場所についても考えてもらわなければそんなに簡単にできるものではないですよということもしっかり理解させるという意味で、かなり詳しく書いてあるなというのを改めて、帝国書院の教科書を見て思いました。それから今、岸和田でも市議会では、投票率の向上というのを非常に大きな課題に置かれており、市や市教育委員会に対しても主権者教育、それから投票率の向上について取組をされたいという要望もいただいているところです。

そのような中で、東京書籍や帝国書院で、それぞれ選挙で市長を選ぶということで題材を挙げていただいているのですが、中でも、帝国書院はそれぞれ自分達でAかBかを調べ、考えを出した上で、改めて振り返りのところで、再度それを問い直すというふうな工夫をされているということをお聞きしました。

自分の身近なところで問題意識を持つということが大事なのですが、その場合には、時事といますか、周りで起こっていることをしっかり感じ取るということが大事です。法令の列記に留めず、授業で活かす工夫が必要です。気候変動をとらえたパリ協定であるとか、或いは、最近話題になっている表現の自由との関わりで人権をどうとらえるかというヘイトスピーチの問題などについても記載はされておりますので、そういった点に鑑みて、帝国書院の教科書はふさわしいと考えました。公民的分野については、帝国書院ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、公民的分野は帝国書院ということで採択したいと思います。

次は、数学の審議に入ります。説明をお願いします。

○松田学校教育課指導主事

数学は、7者でございます。各者、調査員からの報告を説明いたします。

東京書籍に関しましては、巻末に小学校の内容など、既習内容を確認できるように工夫されているという点と、生徒が主体的に考えたり調べたりする問題解決的な学習を通して、知識や

技能を身につけることができるような工夫が施されているという点が特徴的でした。

大日本図書に関しましては、巻末に小学校の内容も含めた既習内容の振り返り問題が用意されていたという点と、章末の問題で、3観点に基づいた評価を生徒自身が行えるように工夫が施されていたという点が特徴的でした。

学校図書に関しましては、各領域前に振り返りを配置し、小学校の内容も含めた学習内容の確認ができるように工夫されている点と、生徒どうしの対話を中心に、主体的・対話的な学びを身につけ、真理を追究する態度が養えるように工夫されている点が特徴的でした。

教育出版に関しましては、章の冒頭に既習内容を確認し、各単元の学習にスムーズに入ることができるように工夫されているという点と、巻頭で問題発見・解決の過程を示すことにより、主体的・対話的な学び方が意識できるよう工夫されているという点が特徴的でした。

新興出版社啓林館に関しましては、既習事項を振り返るためのページを配置し、効果的に既習内容と関連がわかるように工夫されている点と、協働的な問題解決場面を設定することで、対話的な学びができるように工夫されているという点が特徴的でした。

数研出版に関しましては、章の始めで、その章の学びに関する既習事項をふりかえることができるように工夫されていた点と、問題解決型学習を前提として構成されており、思考力・判断力・表現力が養うことができるように工夫がされているという点が特徴的でした。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

お聞きしたところだと、各者とも本当にいろいろな工夫をされていていいと思うのですが、算数から中学になって数学に変わり、つまずいたり、或いは数学が嫌いになってしまうという子ども達が多い現状の中で、それに対する対策をより取っている、またデジタルコンテンツ等にも工夫をなされていると思われる教科書はどれなのか教えていただければと思います。

○松田学校教育課指導主事

調査員の話の中でも、数学は、各学年で系統立てて学習を行うものであり、前の学年の際のつまずきは、次の学年でも影響を受けるという話になりました。

基礎基本が、岸和田の子ども達にとっては非常に重要な面となっており、既習内容を振り返ることは、非常に重要であって基礎基本の定着においても大切であるという話題になりました。

各者ともふりかえりのページを作成しており、子ども達のつまずきをできる限りなくすような工夫が見られました。

その中でも、子ども達自身で振り返るような工夫をしていたのは、数研出版であると報告を受けています。

章内の問題の中で、振り返りが必要な問題には振り返りマークを示しており、子ども達自身がみずから振り返るような工夫がなされているという報告を受けております。

併せてデジタルコンテンツについてです。各者ともデジタルコンテンツには非常に力を入れて工夫がなされており、非常に扱いやすく、特に内容について、差異があるという報告は聞いておりません。

ただ、デジタルコンテンツの二次元コードの記載について、少し違いがあったので報告させていただきます。

まず、学校図書に関しては、デジタルコンテンツの内容が計算問題である、もしくは、非常に間違いやすい問題である、との分類が記載されており、子ども達自身が自ら、学習したい問題を見つけて、選択できる資料になっているという報告を受けております。

また、数研出版に関しましては、デジタルコンテンツの内容のレベルを記載しており、これにも、数学は不得意な生徒、もしくは得意とする生徒がみずから選べる記載があったと報告を受けております。

○植原教育長職務代理者

数学において、「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」に関して、一番必要なこととして実生活にどう活かすか、そういう意味における学びとのリンクがとても必要になっていくと考えています。「深い学び」を中心に、記載され、学習しやすいようにしている教科書に関する意見は出ていましたか。

○松田学校教育課指導主事

調査員の中でも、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各者とも様々な工夫がなされていると報告はありました。まずは問題を見い出す。そして考える。そして、話し合うことによって多様な考えを入れる。そして、振り返って、さらに深める。そのサイクルが、各者なされており、その過程の重点的な面も、記載されていると報告を受けております。

○植原教育長職務代理者

要するに「深い学び」を実生活にどう戻すかの、そういう点においてはどの者もそれには触れていて、先ほどのサイクルでやっているということでもよろしいですか。

○松田学校教育課指導主事

はい。

○和田委員

先ほども少しデジタルコンテンツについてお話が出ていたのですが、デジタルならではの立体的に見せるなど、優れたところはどこかとか、ありましたら、教えてください。

○松田学校教育課指導主事

調査員の中でもできる限りデジタルコンテンツを中心に調べられておりました。その中でも黒板では表せず、今までは1パターンしか表せなかったことを、いかにデジタルコンテンツによって表すかという点についても調べておりました。

回転体や立体の切り口、その点においても、これは本当に各者とも工夫がなされており、どの者においても、非常に差異はなく、取り組まれておるという報告を受けております。

○大下教育長

数学になった途端に、いろんな実生活とは違う概念を持ち込まないと理解できないようなことが多々出てきて、つまずいてしまうこと多いのですが、中学校の数学の中で特につまずきが多いところというのはどういうところなのか。それについて、各者どういう対応をされているのかということについてお伺いをしたいと思います。

○松田学校教育課指導主事

3年生で、分数で表すことができない、いわゆる無理数である「平方根」において、つまずきが非常に多く見られると報告を受けております。調査員の方でも平方根の導入について調査をして参りました。各者とも、面積が一辺の2乗である正方形の面積を活用しておりました。

一辺の長さを定規で測ることができない辺を作図することによって、平方根への導入への工夫をしておりました。

その中でも、正方形の折り紙を折るという3次元の世界である実体験において、また、みずからの手を動かすことにより、無理数の長さの辺を作るという工夫の導入を行っていたのは、数研出版であったと報告を受けております。

○谷口委員

今までこの4年間、本市の数学の教科書は学校図書を使っていたわけですが、実際使ってみて、非常によかったと感じているのか、いやこういう点は使いにくさを感じられていたところがあったのかどうか、その辺をお聞かせいただきたい。

○松田学校教育課指導主事

調査の報告の中でも、現在使っている学校図書の教科書について話題が挙がりました。

当然、内容については、申し分ない教科書ですが、少し文字数が多く大切な部分がわかりにくいという意見も調査員の中からは出ておりました。その点につきましても、やはり子ども達にとって授業の目当てが非常に見やすく、開いたときに、今日はこれを学ぶのだ、ということがわかりやすいと報告を受けているのが、東京書籍、数研出版の2者でした。

○大下教育長

今の学校図書の教科書に対する見解はあくまでも岸和田の実態に合わせたときに、1ページあたりの情報量や文字数が多くて、少し難しいのではないかという問題で、一般的に学校図書の教科書が使いにくいということではないという理解でよろしいでしょうか。

○松田学校教育課指導主事

はい。

○大下教育長

今のやりとりや意見を全体的に見てみますと、数研出版を採用したいと思います。

その理由としては、やはり基礎基本の定着というのが大事で、そのためには振り返りが重要です。子ども自身が自らそれについて、気づくことができる振り返りマークというのがつけられている点や、レベルに応じた練習問題、反復問題をする必要があるなか、数研出版はそのレベルが記載をされているということで、子ども達が自らの学習到達度に合わせて、適切な問題を選べるということです。

また、つまずきやすいところを、実際に自分の目で見て手を動かして、感覚的に無理数というものを概念判断できるというところ、そういう工夫がされている点で、数研出版の方に優位性があるのではないかというふうに理解をしました。以上のことから、数学については、数研出版ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、数学は数研出版ということで採択したいと思います。

次は、理科の審議に入ります。説明をお願いします。

○出水学校教育課指導主事

理科の教科書については、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の5者でございます。

内容の程度については、どの者も重要事項を太字にしたり、色を変えたりしてわかりやすく

記述されていました。また、分量については、学校図書が補足文が多く、丁寧に解説されているという調査員の意見がありました。教育出版については、「1ページの文字数が少なく余白も多いが、もう少し内容が多くてもいいように感じた」という意見が選定委員会で出ていました。写真や挿絵については、どの者も生徒の興味を引くようなものを単元のはじめに掲載しており、本文の近くに図・表を配置するなどの理解しやすい工夫がされていると調査員が言っていました。

組織・配列については、各者、配列に違いがありましたが、調査員からは、生徒の学びやすさ、各学年の学級数、理科室の数などに応じて単元配列を変更できるので、配列の違いは特に問題ではないと話がありました。単元構成については、各者とも基礎的な知識の習得→問題発見→観察・実験→結果から考察のように探究的な活動を意識した構成になっているとの調査員の話がありました。

人権の取扱いについては、どの者も性別・人種・身体的特徴に配慮すること、カラーユニバーサルデザインやUDフォントを使用するなど誰でも読みやすい教科書が意識されていると調査員の話がありました。また、どの者もSDGsの記事を取り上げたり、マークをつけて意識させる工夫がされていました。防災・減災や自然環境については、各者ともコラムなどで取り上げている部分があり、東京書籍では「防災特集」、教育出版では「ハローサイエンス」のコラムで防災・減災について取り上げていました。その中でも新興出版社啓林館は、防災・減災ラボなどで比較的多くの記事を掲載しており、理科で学習した内容を身近なこととして意識できるという話が調査員から出ていました。安全の確保、事故防止については巻頭や巻末、教科書の中頃に「理科室の決まり」や「薬品の取扱い」などがあり、事故防止の注意点がまとめられていて生徒に説明しやすいという調査員の話がありました。

学び方の工夫について、個別最適な学びについては、各者ともデジタルコンテンツを用意しているが、その中でも東京書籍、新興出版社啓林館が解説動画やワークシートが充実しており、特に新興出版社啓林館の学習の振り返りや探Qシートなど使いやすいものが多い。という話が選定委員会で出ていました。協働的な学習では、観察・実験の前に生徒や先生との会話が載せている部分が多く、対話的を通して学習を進めるモデルが示されているが、詳しく記載されていて考えることにつながりにくいところがある、という話が調査員から出ていました。

補充的な学習・発展的な学習について、どの者も理科の学習が実生活に関わっていることが理解できるような資料やコラムがあり、東京書籍では「お仕事図鑑」で実際に働いている人へのインタビュー動画があったり、大日本図書では「やってみよう」で身近なものを使った実験が紹介されていたりしていました。その中でも特に、新興出版社啓林館では「部活ラボ」「お料理ラボ」「お仕事ラボ」などで生徒の興味を引きやすい資料になっていると調査員のなかで話が出ていました。

ICTの活用に関することについて、どの者もデジタルコンテンツを用意して生徒の学習理解につなげる工夫や自主学習のための練習問題などがありました。その中で特徴的だったものは、東京書籍では津波の様子をVRで体験できるものがありました。また、学校図書では全ページウェブ化され、総ルビや英語やタガログ語など多言語で教科書を読むことができるとの話が調査員の話に出ていました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

各者工夫されているので、差異を見つけにくいところではありますが、先ほどの数学離れと同じように、理科離れ、理科嫌いの子どもの多いように思います。

理科は本来、実験や生活に直結した事柄などを理解するのに、非常に面白い学習なので、やはりそれを理解するには、デジタルコンテンツで画像や映像を見ながら、或いは実験等を安全に行っていくところが大きな興味を持つところではないかと思います。デジタルコンテンツが充実している教科書はどれなのか、お示しいただければと思います。

○出水学校教育課指導主事

デジタルコンテンツについては、東京書籍と新興出版社啓林館が特に充実しているのではないかという話がありました。

その中で、特に使いやすいのが、新興出版社啓林館の「探求シート」というもので、それは探求実験をまとめたり、振り返ったりするときに、特に使いやすい、生徒同士の意見を交流しやすいという話が出ておりました。

○野口委員

デジタルコンテンツを使ってこの「探求シート」を使うのですか。もう一度教えてください。

○出水学校教育課指導主事

教科書の巻末にも、紙媒体で用意されているのですが、デジタルコンテンツの中にも用意されており、それを使って意見を交流することもできるということです。

○大下教育長

紙とデジタルとダブルであることが優位性なのでしょう。紙があればデジタルは不要になりますし、デジタルがあれば紙は不要にならないのでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

デジタルでも用意されていることにより、家に持って帰って行ったり、学校に来ることができない場合でもタブレットからアクセスして、先生に提出したり、他の生徒と共有したりすることができます。そのような使い方ができることが考えられるという意見がありました。

○野口委員

この「探求シート」と同じものがデジタルコンテンツの中にあって、そこにアクセスして、自分で過不足を記入すれば、デジタルで他の生徒さんと交換したりできるということでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

そういうような使い方もできるということです。

○野口委員

これはノートに貼って活用するものだと私は思っていたのですが、この同じ内容を生徒同士でお互いに見せ合って、意見交換するというのであれば、紙とデジタルと両方を使って授業していくということでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

状況に合わせて、どちらか使いやすい方を選ぶというところが利点です。

○大下教育長

今、授業が非常に詰まっている中で、実験ができるとう理解がしやすくなり、教科の学習が進めやすいのですが、十分に時間が割けない。そのような中で行うのは、二次元コードによる動画だと思うのですが、その辺で何か各者の特色はないでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

動画についてはどの者も解説の動画を用意しているのですが、その中でも東京書籍や新興出版社啓林館でそのような動画が充実している報告がありました。

観察実験では実際に行えないようなものや、天体の分野において、実際の夜空を授業中に見ることができない中、それがわかりやすく解説されているというのが新興出版社啓林館の動画の中にあると調査員から話が出ておりました。

○大下教育長

エネルギーの分野では結構数学的な知識が要りますよね。他教科との関連性ということを説いている教科書ってありますか。

○出水学校教育課指導主事

どの者も算数や数学との繋がりをマークで記していたり、東京書籍、大日本図書、教育出版では、巻末の資料として、算数・数学との繋がりということを取り上げておりました。新興出版社啓林館も巻末でサイエンス資料として、算数・数学の繋がりを取り扱っておりました。

○野口委員

もう1点、デジタルコンテンツを使ってなかなか経験できないことを子ども達のものにしていくということはわかるのですが、理科では実際に自分達で植物に触れたり、科学的な実験を実際に自分で行い、体験することは今の時代においても、やはり一番大切なことだと思います。できるだけ実際のものに触れて欲しいという思いは今でもあります。実験等についても、どの者も工夫して子ども達が安全にできるようにしてくださっていると思いますが、例えば、実際に子ども達が実験できる内容の量であるとか、植物に関しても、実際に本物に触れることで本物を調べて学習できる内容の量であるとか、その部分について各者の違いはどうでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

各者とも実験観察に関するページ数に違いはあったのですが、学校図書や教育出版では、その実験観察について取り上げているページ数が多く、1つの実験観察について、複数ページで開設しているというところがありました。実験観察自体の数に大きな差異は特に見られなかったと調査員からは聞いております。

○谷口委員

毎年のように大きな災害等が起こっている中で、その事象、防災を理解する上で科学的な考え方は非常に重要だと考えます。ページ数でみると新興出版社啓林館が突出して多いのですが、教える側にとっては現場の先生方の意見はどうでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

新興出版社啓林館では、「防災減災ラボ」という形で、多くのコラムが取り上げられており、実際に調査員からは、日本に住んでいて、やはり地震のことや台風のこと等、実際に身近で起こる災害については、特にしっかりと解説があり、子ども達に自分ごととして考えてもらう意味では、このようなコラムがたくさん載っていることが、理科を勉強する上でも、必要だという意見がありました。

○大下教育長

気になる点として「探究シート」のデジタル化の話ですが、今、ICT教育により1人1台端末を持つ中で、この「探究シート」自体非常に大きな意味を持つと思います。

自分で考えて、それを整理して、人に伝えるという意味で、授業においてデジタルで使ったときに、みんなでそれを持ち寄って、共通の理解をしたものをデジタルに入れ込んで、それを各グループが、また、大きな電子黒板やモニター等に映して、グループ間の意見の比較をして、それによって、それぞれの議論を深めていくといった学習の展開ができるのではないのでしょうか。単に家に帰って自分で学習するだけに、デジタル教材を使うということでないように思いますが、この点について、学校現場での状況はいかがでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

紙で行うのであれば、班ごとでの意見を交流することができるのですが、デジタルを使うことによって違う班の生徒の意見も大型モニターに映し出して、すぐにクラス全体で共有することができるという使い方もできる報告が調査の中でも出ておりました。

○大下教育長

他者でも同様のデジタル化というのは意識をされていると思うのですが、特に新興出版社啓林館ではこの点において、他と比べて丁寧に用意をされているという理解でしょうか。

○出水学校教育課指導主事

この「探究シート」については、PDFであったり、エクセル、スプレッドシートというような種類が3つ用意されていて、用途によって使い分けるとか一番使いやすいものを選んで使用できるということで、特に充実しているという話が出ていました。

○大下教育長

もう1点、新興出版社啓林館においては、最初の説明の中に実生活との関連の中で、「部活ラボ」とか「お料理ラボ」などが出ていましたが、具体的にどのページにどのように載っていて、それが実際に実生活との関連で子どもが理科を学ぶのにふさわしいものであるということをもう一度説明してくれませんか。

○出水学校教育課指導主事

新興出版社啓林館の1年生の教科書166ページです。ここは質量%濃度といって、液体の濃さについての学習をするところです。「お料理ラボ」では、塩分の取り過ぎに注意をということで、いろんな調味料の中にどれぐらいの塩分が含まれているのかということ、醤油、ソース、マヨネーズ、米味噌に実際に書かれているので、どういう調味料を使うことで、塩分を取りすぎたりしてはいけないなということが食生活の中で意識できます。

また、1年生の184ページの「部活ラボ」のコラムでは、沸点融点について、スポーツ飲料を凍らせた場合、先に不純物の水以外の部分が先に凍り、溶けるときにはその水以外の不純物が先に溶けていくので、凍らせたものを飲むと先に甘く感じ、後の方は水が溶けてくるのでだんだんと味が薄くなっていくというような普段の生活で身近に起こるような疑問を取り上げております。

○和田委員

理科と言えば、写真がすごく楽しいのですが、例えば、東京書籍の1年生48ページのように、変わった意味で見せる工夫をされています。写真やイラスト等、見やすさの視点での意見

はございましたでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

本当にどの者も単元の初めに、ダイナミックな写真を用いて、わかりやすく掲載されており、調査の中でも、この東京書籍の写真であるとか、新興出版社啓林館、大日本図書におきましても、とてもインパクトのある写真があり、わかりやすいや興味を持ちやすいというような話は出ておりました。

○大下教育長

私としては、新興出版社啓林館を選びたいと思います。その理由としては、二次元コードがかなり充実している者の1つであるということに加え、先ほどお話にも出ていましたけども、「探求シート」の使い方によっては、子ども達が自分で考えて、その対話的で学びを深めていくということが、特にこのデジタル教材、ICT活用の中では有効に生きていくのではないかという思いを強く持ちました。

さらには実生活のところを拝見しますと、理科離れが進む中で、かなり身近な問題を引用しておられて、生徒が理科に対する関心を高めるきっかけになるのではないかとということも併せて思いました。溶質溶媒との関係もよく間違えるのですが、わかりやすく記載をしていることについても改めて感心をいたしました。

谷口委員からも触れていただきましたが、防災に関してやはり身近な理科に関わる問題として、実際、自分の身にも降りかかる問題であるということを理解する上で、理科のいろんな分野にわたり重要なのですが、新興出版社啓林館の方では特に非常に多く取り上げられておりました。各者とも非常にすぐれた教科書を用意していただいておりますが、以上の点から、新興出版社啓林館を選びたいと考えます。理科については新興出版社啓林館ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、理科は新興出版社啓林館ということで採択したいと思います。

次は、音楽(一般)の審議に入ります。説明をお願いします。

○佐伯学校教育課指導主事

音楽(一般)は、教育出版、教育芸術社の2者でございます。

どちらも表現活動、鑑賞活動、創作活動を通して子ども達を深い学びに導く工夫が凝らされていたという調査結果でした。

調査員の調査、そして選定委員会で特に取り上げられた点は、1つ目に、子ども達に音楽への興味関心をいだけせ、より身近に感じるものであるかということです。

教育出版では、発達段階に応じた歌いやすい曲が取り上げられ、鑑賞曲ではクラシックの曲が多く扱われていました。一方、教育芸術社では、アニメやポップス、映画音楽なども扱われており、子ども達にとって聞き馴染みのある曲が多いという報告がありました。

2つ目に、学びの進めやすさについてです。教育出版では「Active!」の欄に自分が聞き取って感じたこと、自分の表現の工夫などの考えを記入することができるようになっていました。

一方、教育芸術社では「学びのコンパス」に自分が聞き取って感じたことや自分の考えを書く欄があり、その後話し合う展開が記載されており、授業をデザインする際に参考にしやすいとの調査員の意見がありました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

確認ですが、子ども達が興味を持って感性を養うことや楽しみだと思えるような授業になるようなコンテンツが入っているのは、どちらの教科書かなと思うのですがいかがでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

子ども達がなじみやすい曲が多いという点では教育芸術社です。

また鑑賞曲の中で、映画音楽に親しむ鑑賞するという事を設定しているのも教育芸術社です、子ども達はその聞きなじみのある曲から、感じ取り方を学び、そしてまた、他の生活に活かしていくことができるので、生活の中で音楽に親しむことに活かしていけるのではないかという意見がございました。

○大下教育長

固い頭で恐縮ですが、人間は易きに流れるものです。本来はクラシックを学ばせることが望ましいと思いますが、ポピュラー音楽等、少しハードルを下げた生徒に聴かせることが大事であるという考え方もなきにしもあらずと思いますが、今の岸和田の子ども達にとって、音楽教育を進めるうえでどちらがよさそうでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

選定委員からも意見が出ていましたが、やはり音楽は好きと嫌いが大きく分かれるところであり、好きな子はどんどんいろんな曲にも親しんでいくところはあると思いますが、苦手な子にとっては、やはり少し耳を傾けてみようという思い、まずそういう意欲をかき立たせることが大切という話が出ておりました。

そういった点では、その教材の中になじみやすい内容があるのは、先生にとっても活用しやすいという意見がございました。

○大下教育長

併せて西洋音楽だけではなく、日本の音楽も非常に大事であるという視点で、過去の教科書採択の際には、日本の伝統音楽を取り上げることも大事だということを、教育委員会会議で議論した覚えがあります。その点で、両者に何か差異はございますか。

○佐伯学校教育課指導主事

伝統音楽について、例えば「能」を挙げますと、教育出版ではまず写真が大きく、とてもわかりやすく、インパクトがあるという声がありました。

教育出版の2、3年の上の教科書の52ページは、説明資料が2ページ、鑑賞曲が2曲、羽衣と敦盛というものが扱われ、また能を体験するような構成になっているということでした。

一方、教育芸術社は、2、3年生芸能44ページから始まりますが、説明資料が2ページというのは変わりありませんが、鑑賞の教材は敦盛の1つに絞られております。

しかし、そのあとに、その敦盛の謡いを謳うという歌唱の教材としても活かされ、舞の体験の1ページというように、扱うものは1つに限定されていますが、より深く、また鑑賞と歌唱を絡めながら、展開できるような構成になっていました。

さらに、1年生の教科書での伝統音楽についての導入では、50ページのところに「日本音楽入門」として掲載されていて、わかりやすく、特徴などが示されていると報告がございました。

○谷口委員

二次元コードについてですが、教育芸術社の方がたくさん用意されております。まだ二次元コードを読み込んでいませんが、音楽はそのまま聞ける状態になっているのでしょうか。また、著作権といった問題はどうか。

○佐伯学校教育課指導主事

各者が独自に作られたであろう動画もあり、例えば、「鑑賞」の分野で、能の舞を取り上げていたり、赤とんぼの曲であれば、風景の画像と一緒にこの音楽が聴けるなど、各者独自の工夫や、ワークシートが用意されています。教育芸術社に多かったのですが、パート別のカラー伴奏や全体の伴奏なども用意されていました。それぞれパート別に練習するときに、先生がいなくても自分達でその音源を再生しながら練習することができるようになっていました。また、音楽室に限らず、他の場所でも伴奏を聞きながら、個人で練習したり、鑑賞したりすることができる良さがあるのではないかという意見がありました。

○野口委員

親しみやすいポップスが扱われているという部分は、教育芸術社でしたら 70 ページ以降の参考曲のところの内容のことをおっしゃっているのでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

70 ページ以降以外にも、例えば、1年生の 34 ページ「君を乗せて」は「天空の城ラピュタ」の曲となります。また、36 ページ「イメージと音楽」では、映画音楽の鑑賞のページとなっております。

○野口委員

指導要領に記載されている扱わなければならない楽曲については、両者どのような違いがありますか。また、日本の音楽において「能」があがっていましたが、ソーラン節の扱いは、教育芸術社の方は拍表というのでしょうか、コブシがわかりやすくされているのですが、教育出版の方は五線譜の楽譜での表記になっている、この違いを音楽の先生方はどうとらえられているのか、もしお話がありましたら教えてください。

○佐伯学校教育課指導主事

指導要領に記載されているものについてはどちらの者も扱われています。ソーラン節については、調査の中などでは話が出てきませんでした。

○大下教育長

岸和田の子ども達がより馴染みやすいということで、ポピュラー音楽などを取り入れてハードルを少し低めながら、音楽にまず親しんでもらうことが大事であるという点や、二次元コードにおいてパート別の音源データが入っていて、指導者がいなくても自分でそれを練習したりパートで練習したりできるというお話がございました。日本の伝統音楽についてはあまり差がないような気がいたします。

ソーラン節において野口先生からお話しがあった「五線譜」は、西洋音楽から来たものですが、日本の伝統的な節回しの表現をしているという意味で特色あるとも考えられますが、教育上どちらがふさわしいかにつきましては、現場の意見が聞けてないので、そこについては評価は控えます。

ただ、先ほどの馴染みやすさや、音源がパート別に用意されているという点に鑑みまして、

音楽（一般）は教育芸術社の教科書ということでよろしいでしょうか。

（教育委員 異議なし）

それでは、音楽（一般）は教育芸術社ということで採択したいと思います。

○谷口委員

付帯意見を申し上げます。国歌についてですが、教育出版は、全国のさざれ石を写真で提示しております。教育芸術社は、文章でさざれ石とは小さい石の集まりなのだと書いてくれています。

私自身の経験で恥ずかしながら、国歌を歌うときに、「さざれ」で一度、息を継いで、「いしの」と続けておりましたが、実は1つの言葉であり、「さざれいしの」と言わないといけないのに、そう思って聞いてみるとそこで息継ぎをしている人が実に多いので、意味を十分に理解することも大切ではないかと思えます。

その「さざれいし」の意味や、1つの大きな岩になるということなど、自分の国の歌を子ども達に正しく理解してもらい意味で写真は非常にわかりやすいと思います。写真がないにしても、そういったことの文言の説明をしていただければ有難いと思います。

○大下教育長

次は、音楽（器楽）の審議に入ります。説明をお願いします。

○佐伯学校教育課指導主事

音楽（器楽）も、教育出版、教育芸術社の2者でございます。

どちらも一般と同様、表現活動、鑑賞活動、創作活動を通して子ども達を深い学びに導く工夫が凝らされていたという調査結果でした。

調査員の調査、そして選定委員会で特に取り上げられた点は、1つ目に、子ども達に音楽への興味関心を抱かせ、より身近に感じるものであるかということです。教育出版では、クラシックの曲が多く扱われていました。一方、教育芸術社では、クラシックだけでなくテレビ音楽やアニメなど親しみのある曲も扱われていました。

2つ目に、学びを進めやすさについてです。教育出版では配列がリコーダーなどの管楽器、ギターなどの弦楽器、打楽器の順になっていました。一方、教育芸術社では岸和田市内でよく扱われているリコーダー、ギター、琴、三味線の順に配列されており、ページを開きやすいという意見がありました。また、例えば箏では、楽器の説明や様々な奏法、練習曲などが掲載されており、前奏を創作したり、有名な曲に挑戦したりする場面が設けられています。

一方、教育芸術社での箏の扱いは、楽器の説明、様々な奏法、「弾いてみよう」での一小節ほどの短い練習、有名な曲を演奏する場面が設けられており、スモールステップで学習を進めてくことができるようになっていたとのことでした。さらに、創作ツールを使って箏の旋律を作る場面も設けられていました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

音楽（一般）と音楽（器楽）が同じ者であるほうがいいのかそれとも別であっても、そこはこだわる必要はないのでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

器楽については、3年間1つの教科書を使いますので、その教科書に合わせた配列、順番を変えることで工夫ができるかというふう聞いております。必ず同じでないといけないというような話はありませんでした。

○大下教育長

両者で二次元コードに関して何か特色はございますか。

○佐伯学校教育課指導主事

二次元コードの掲載の量については教育芸術社の方がたくさんございました。

奏法や伴奏そして演奏者の声などを指導することもできるところが特徴です。

○大下教育長

先ほど音楽（一般）でも議論をしましたが、やっぱり岸和田の子ども達にとってはまず親しみやすさ、馴染みやすさということで、器楽演奏についても、クラシックだけではなくテレビ音楽やアニメなどが取り入れられているということで、器楽についても、教育芸術社の教科書ということでよろしいでしょうか。

（教育委員 異議なし）

それでは、音楽（器楽）につきましても教育芸術社ということで採択したいと思います。

次は、美術の審議に入ります。説明をお願いします。

○西川学校教育課指導主事

美術については、開隆堂、光村図書出版、日本文教出版の3者です。答申について、主に2つのポイントに絞って説明いたします。

1つめは、「ページ構成」について、各者とも鑑賞に活用できる“原寸大”の作品が掲載されていたり、屏風絵をより体感できるように“折り込みの仕掛け”などの工夫がされています。実際のページを一緒に見ていただきたいと思います。原寸大については、日本文教出版1の56、57ページをお開けください。このような土器の原寸大の写真が載っております。こちらは、どの者も原寸大の掲載が見られます。続いて折り込みの仕掛けについてですが、同じく日本文教出版の24、25ページをお開けください。このようなものを、開けることによって、屏風絵を見ることができます。こういった折り込みの仕掛けにつきましても3者ともあります。

それらの工夫に加えて、光村図書出版では日本の絵画の紹介ページに、和紙のような質感の紙が使われていることが特徴的で、その題材に入り込みやすくなるような工夫の一つではないかと選定委員からも調査員からも意見が出ていました。実際のページとしましては、光村図書出版の2・3の27ページをお開けください。実際、手で触っていただくと、ざらざらとした和紙のような質感を味わうことができます。これが実際日本画のイメージに繋がるような工夫の1つではないかという意見が出ておりました。

2つめは、巻末資料について、各者とも、巻末に学びの資料として、さまざまな技法の紹介などが掲載されています。実際のページとしましては、開隆堂1の54ページ、使える知識広がる美術という部分ですが、ページをめくりますと、紫で左上に学びの仕様というふうに巻末まで続いていきます。文字のデザインについてですとか、いろいろな技法についても写真で紹介されております。

こういった巻末の学びの資料につきましても、3者とも掲載がありました。特に光村図書出版では、巻末の資料に加えて、今回新たに別冊資料を設けたことが特徴的で、3年間継続して

使用できたり、生徒が美術の活動を行う上で、表現の助けになったりするところが良いのではと選定委員からも調査員からも意見が出ていました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

他の教科でも別冊を添付している教科書があるのですが、別冊の教材があることのメリットあるいはデメリットがあれば教えてください。

○西川学校教育課指導主事

どちらが使いやすいかという調査員からの意見は特には出ませんでした。内容は3者とも充実していますが、光村図書出版に関しては、3年間ハンドブックのようにして使えるメリットが考えられるのではないかという意見が出ておりました。

○野口委員

美術の場合、自分自身で教科書を参考にしながら、表現していくということが大事だと思うのですが、教科書を見せていただいて、子ども達を作成していくにあたって、より自信を持って取り組めるように、丁寧に順序立ててその過程を示している教科書と、表現のヒントとして、方法を順序立てて示すのではなく、ピンポイント的にヒントを立てる箇所が掲載されている教科書とがあると思ったのですが、岸和田の子ども達にとっては、扱いやすかったり、役立てやすい教科書はどちらなのかいかがでしょうか。

○西川学校教育課指導主事

やはり美術で表現するにあたって、一定のヒントがある方が、美術で表現することが苦手な生徒にとっても助けになります。その点においては、どの者も表現のヒントになる紙面であったり、二次元コードを読み取って動画を見ることができます。それぞれ3者とも工夫があるのですが、特に光村図書出版では、紙面でのヒントが多かったという話が出ました。紙面を通して、発想やそのヒントが充実しています。また、「みんなの工夫」と題して、作品に対する生徒の思いが紹介されていたり、二次元コードを読み込むと、生徒の作品インタビューを視聴できるような工夫も見られるという話が上がっておりました。実際のページとしまして、光村図書出版の美術2・3の9ページの右に表現発想構想というヒントが書かれており、1ページめくると10ページの上に「みんなの工夫」というものがあり、二次元コードを読み取ると、作品に対する生徒自身のインタビュー動画も視聴することができます。こういったことが特徴的であるという話が出ておりました。

○大下教育長

絵画鑑賞に関しては実物を見るにしくはなしなのですが、なかなか海外の美術館に行けませんよね。また作品も日本にはなかなか来ないという中で、再現性というのは非常に大事だと思います。

それぞれの教科書の同じ作品を見ると、色調とか再現性にどうも違いがあるように感じるのですが、その点について意見はでませんでしたか。

○西川学校教育課指導主事

調査員からは、ゴッホの「タンギーじいさんの肖像」を比べてみたという話が上がっておりました。実際のページを各者紹介いたします。開隆堂1年の14ページ、日本文教出版2年3年上の30ページ、光村図書出版の2年3年の43ページ、こちらを比べてみますと、調査員の中では、光村図

書出版の「タンギーじいさんの肖像」が実物により近い形で再現されているのではないかという話が出ておりました。タンギーじいさんはもちろんのこと、背景についても、より鮮明に再現されているという話が出ておりました。

○大下教育長

現物の再現性が一番近いのは、コントラストと色彩の両面において、光村図書出版のものであるという理解でしょうか。

○西川学校教育課指導主事

はい。

○大下教育長

今の議論を踏まえまして、美術については、光村図書出版を採択したいと思います。

その理由としては、別冊についてはいろいろ意見が分かれると思います。使いやすいという意見もあれば使いにくいという意見もあり、それは1つの工夫ではあると思います。

光村図書出版は、紙面を通して、発想とか構図に関して、子ども達が考え方を出し合うということであるとか、みんなの工夫ということで思いを出し合って、それを二次元コードの形でインタビューを通じて皆さんで共有してもらって考えを聞いてもらうこともできるということで、ひと工夫があるというふうに思います。

私の観点ではやはり美術というのは鑑賞が非常に大事で、再現性という意味で、色彩とコントラストの両面から、光村図書出版が一番現物に近いのではないかという話もいただきました。以上の点から美術については光村図書出版の教科書ということでよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、美術は光村図書出版ということで採択したいと思います。

次は、保健体育の審議に入ります。説明をお願いします。

○佐藤人権教育課指導主事

保健体育は、東京書籍、大日本図書、大修館書店、Gakken の4者です。各者の推薦理由を順に3つずつご説明します。

まず、東京書籍について、一つ目が、紙面の見やすさです。各ページの文章と資料の位置が固定されており、視線移動せずに、必要な資料を確認できるような配置なり、また、各ページの色味の統一感や、全体的に発色を抑えた色が使用され、視認性が高まる工夫がされています。

二つ目が、デジタルコンテンツの量です。ほぼ全ページにコンテンツが用意されており、補充・発展的な学習や家庭学習がより深まりやすいとの報告もありました。

三つ目が、現代社会に関わるテーマが幅広く取り扱われている点です。「SDG s」や「性の多様性」、「情報活用」、「感染症の予防」などを幅広く扱い、特に「SDG s」と各単元の学習が重点的に扱われていることが特徴です。

続いて、大日本図書についてです。

一つ目が、家庭や地域とのつながりです。「家」「地域」マークを示すことで、家庭や地域における健康や安全について考える活動が記載されるなど、学んだことを家庭や地域につなげやすい工夫がされているのが特徴です。

二つ目が、単元や教科のつながりです。単元の同一箇所「リンク」マークを配置し、教科や単元との関連が分かりやすく示されています。

三つ目が、話し合い活動の設定です。単元内の活動に「話し合ってみよう」の項目が多数設定されており、協働的な学びを促すよう構成されているのが特徴です。

続いて大修館書店です。

一つ目が、見やすさへの工夫と資料の豊富さです。見開きページの文章と資料を固定し、見やすい工夫をしながらも文字数と資料数が充実したまるで資料集のような構成が特徴です。

二つ目が、外部リンクの紹介です。デジタルコンテンツに加え、学習に関連する外部リンクを紹介するなどの工夫がされています。

三つ目が、現代社会に関わるテーマが幅広く取り扱われている点です。現代社会の特徴である「SDGs」や「感染症の予防」などのテーマを広く扱っている。特に「性の多様性」や「情報活用」に関する内容を多く取り扱っているのが特徴です。

最後に、Gakken です。

一つ目が、見やすさを追求しつつスモールステップの学習への工夫。文字の大きさやフォント工夫し、余白を多くしながら、視認性が高い構成になっています。また、各単元の学習内容を、ページ数を増やししながら細分化し、スモールステップで学習できるよう工夫されています。

二つ目が、外部リンクの紹介です。デジタルコンテンツに加え、学習に関連する外部リンクを紹介するなどの工夫がされています。

三つ目が、現代社会に関わるテーマが幅広く取り扱われている点です。現代社会の特徴である「SDGs」や「性の多様性」や「感染症の予防」について扱っている。特に「感染症」の学習では、感染症に関連した偏見や差別の実態や解消を促す外部リンクの紹介がされており、人権教育とのつながりも意識された構成されているのが特徴です。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

各者とも今お聞きしたところ非常に配慮された内容のように思います。なかでも思春期を迎える中学生の心の問題とか或いは男女の体の違いの問題、ひいては望まない妊娠とか、そういう性の問題、そういった内容を正面から取り上げている教科書というのはあるのでしょうか。

○佐藤人権教育課指導主事

4者を比べてみますと、どの者も共通していますのが、まず、体の発育発達の面、ここに関する記述や誤った性の情報への注意喚起、その対処法の記載、これはどの者も共通して載っておりまして。

加えて、東京書籍、大修館書店、Gakken に関しましては、SNS上に自分の体の画像を投稿するといったトラブルも紹介されていて、今の情報化社会に合わせた子ども達に想定されるトラブルについても記載がされているというのが特徴でした。

○谷口委員

喫煙飲酒、大麻とか薬物に関連する内容はどうでしょうか。

○佐藤人権教育課指導主事

どの者に関しまして、喫煙飲酒、薬物乱用に関しまして、その危険性であるとか、乱用に至る要因、それから対処法、断り方について記載がされていました。

ロールプレイングを通して、どうやって断ろうか、また、どうやって避けていこうかなど、

そのような活動を入れているというのはどの者も共通しております。

各者の特徴としては、まず Gakken に関しまして、薬物についての注意点、そこについての項目が書かれておりました。東京書籍に関しましては、デジタルコンテンツが充実しているというところで、実際に薬物を過去に乱用していた方の証言の動画、そういったものが入っており、よりリアリティーを持って指導に当たれるような工夫がされています。

それからロールプレイに関しまして、実際にアニメーションを使って、声優さんも使いながら、こういったときにどういうふうに通ろうかというイメージをしやすいような仕掛けも見受けられました。

○植原教育長職務代理者

保健体育では、理科や社会や国語といった他教科との関連性の中での展開がありますが、指導要領における横断的な学習が大事ですが、各分野との関わりについて、その点について各者どうでしたか。

○佐藤人権教育課指導主事

実際にその単元とか教科の繋がりについても、調査員の中からも意見が上がっておりました。まず、東京書籍に関しましては、単元教科の繋がりを、先ほどの大日本でもお伝えしたリンクマークというものが、東京書籍にも多数配置されておまして、それを見ながら、他教科との繋がりであるとか、単元との繋がりがわかりやすい構成になっています。

大日本図書も同じく、同じ分量を単元間とか、教科間の繋がりがわかりやすいというふうに、調査員からも聞いております。

大修館書店に関しましては、単元間の繋がりがわかりやすい一方で、他教科との繋がりというものがあまり見受けられなかったと聞いています。

Gakken に関しましては、巻末の資料でどの単元とどの単元が繋がっているや、どの教科と繋がりがあるのかなど、一覧表で載っていますが、各ページでこの単元が繋がっているといったものは見受けられませんでした。

○植原教育長職務代理者

今の説明において、繋がりでは東京書籍と大日本図書が繋がっているということですね。その中で、現代的保健体育の課題である SDG s について、この2者ではどのような取り扱いをされていますか。

○佐藤人権教育課指導主事

東京書籍に関しましては、最初の口絵、実際に教科書を見ていただきますと、重要な分野に関しましては口絵で載っているのですが、その中の最初に SDG s についての特集がされているのが1つの特徴になっています。それに加えて、すべての単元の最後に、今学んだことが、SDG s のどこの目標に繋がっているのかを確認するための欄が設けられているというのが東京書籍の特徴になります。

一方で大日本図書では、こちらは以前採択された教科書になっておりますので、この SDG s についての項目というものが、今回は載っておりません。

○和田委員

本文と資料のレイアウト、各者特色あるようですが、先生にとって使いやすい者はどこでしょう。また、自然災害も増えてきているなか、今後、知識として子ども達が持っておかない

といけないと思うのですが、そのあたりもお聞かせください。

○佐藤人権教育課指導主事

まず授業への使いやすさというところですが、紙面構成を見ていただきますと、東京書籍に関しましては、各ページの左側に文章、右側に資料という形で固定をされております。Gakkenも同じような配置がされております。大修館書店に関しましては、見開きの中央に文章、その周りに資料という形になっていますが、これも同じように、ページが固定されて文章と資料が固定されて配置されております。

大きな違いがあったのは大日本図書になりますが、こちらは開いていただきますと、左側に文章、それから右側にすべて資料を載せています。このように、固定された構成になっているのですが、調査員の方からも、教科書だけではなくて、ノートやプリントを1つの机に広げながらの授業の際に、どうしても教科書とノートの重なりができてきます。大日本図書のように、重なった時に、文章だけが見えてしまったり、入れ替えると、今度は資料だけになってしまったり、その文章に関連した資料を同時に見ることができない状況になる可能性も出てくるのではという話が出ています。

他の3者に関しましては、文章に関連した資料が同じページ載っているのでも、その関連する資料や文章が見やすいという話が出ていました。

2点目の自然災害に関することですが、どの者も自然災害の危険であるとか、発生した場合の行動についての記載はされています。特に東京書籍に関しましては、それに加え、特集ページを設け、災害によるPTSDの発症や、そのときの心のケア、災害に対しての地域での繋がり、人々の繋がりについて記載があり、また、デジタルコンテンツで補充しているというところが、各者にはない特徴であると話が出ていました。

○大下教育長

今のやりとりをもとに、結論から申し上げますと東京書籍を採用したいと思います。

まず、使いやすさということでは1ページの中で、見開きではなく1ページの中で左側に本文、右側に資料ということで統一されていて、使いやすいのではないかとことです。それから思春期や性の問題に関しては最近非常に社会を騒がしてるSNSトラブルに関して注意喚起がなされているということ。薬物等に関しても一番大事な当事者の意見、これはたいへん心を打つものですが、その意味で、東京書籍では、デジタルコンテンツの中に薬物中毒の経験者の言葉が出されているということ。SDGsに関しては、それぞれの口絵の部分だけではなく、すべての単元の最後にその関連性の記載があること。自然災害に関しては、その後のPTSDのこと、地域との関わりについても触れられているというところで、他者に比べて少し優位性があるのではないかと考えます。

内容が盛りだくさんなので、教えるときには、かなり注意して教えていく必要があると思いますが、以上の観点から東京書籍を採択したいと思います。

保健体育については東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、保健体育は東京書籍ということでも採択したいと思います。

次は、技術家庭の審議に入ります。説明をお願いします。

○植林人権教育課指導主事

技術分野は3者で、東京書籍、教育図書、開隆堂出版です。

調査員や選定委員会で討議されていた内容から、内容の程度や組織配列について、東京書籍は、「目標」・「始めの活動」・「学習課題」・「まとめの活動」などが、見開きの同じ位置に配置されています。また二次元コードも必要な箇所に配置されており、学習しやすくなっておりました。教育図書は、本冊と別冊で構成されていて、別冊は加工法を確認したり、実習中に作業を確認したりすることができるようになっておりました。加えて、学習ごとの冒頭の「めあて」とページ末の「ふり返る」を対応させ、学習理解の確認ができるようになっておりました。開隆堂出版は、見開きで流れを確認できるように構成されており、本文・写真・挿絵・図・表・二次元コードなどが適切に配置され、学習しやすくなっておりました。

人権の取り扱いについては、東京書籍は、情報モラルに関わる内容について、便利な点と注意すべき点について、事例を挙げて示されておりました。教育図書は、情報モラルの事例が挙げられており、その事例を見てどうなるかを考える場面が設定されておりました。開隆堂は、情報モラルの事例が挙げられており、その事例を元にどのような問題に発展するかの可能性が示されておりました。

学び方の工夫では、東京書籍は、問題発見・問題解決例を示す流れになっており、問題解決の道筋が立ちやすいようになっておりました。問題解決例も多く、見通しが立てやすく、学習を進めやすいようになっておりました。教育図書は、社会の中にある問題を技術の力で解決できる流れになっており、見通しが立てやすく、学習を進めやすい工夫となっておりました。開隆堂出版は、問題発見、解決の例、解決という流れになっており、見通しが立てやすく、学習を進めやすい工夫となっておりました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

全国的な動向かもしれませんが、中学生になると個人的にもスマホを持って、いろいろ情報をそこから得ているのが現実かと思います。教えていただいた情報モラルについて各教科書でそれぞれ述べられていると思いますが、その内容の事例を見ると、それぞれ扱っている件数にはさほど変わらないようにみえますが、フィルターバブルやエコチェンバーなど、少し難しい内容をしっかりと取り上げていました。例えば、東京書籍の214ページ、216ページには、そういう難しい言葉をきちっと理解すること、我々が得ている情報がそういう影響のもとに作られているのだということをしっかりと掲載してありました。子ども達がこのようなことを知るといことは非常に大事だと思ったのですが、そういったことに関しては何か意見が出ていませんでしたか。

○植林人権教育課指導主事

調査員の中でも、情報モラル、情報の扱い方について話し合いがされておりました。特にこの先も、子どもたちが情報機器を身近に活用することを前提に、どのように使っていけばいいのだろうという内容でした。そのような中、東京書籍では、情報機器は非常に便利なものだが、注意すべき点を詳しく示されているところは、子どもたちがわかりやすいのではないかという話が出ておりました。また事例についても、数多く、示されているという意見は出ておりませんでした。

○植原教育長職務代理者

プログラミング学習については、技術で取り上げる課題だと思います。そこに関して岸和田の子ども達の発達段階を考慮すると、どの者の教科書が活用しやすいのかというような意見は出していましたか。活用のしやすさについて、岸和田の子どもがよく知っているのなら難しい内容に取り組みばいいし、これから学んでいく段階であれば導入から取り組みばいいと思いますし、発達段階に合わせる事が大事になってくると思います。

○植林人権教育課指導主事

プログラミングについてですが、各者、スクラッチや、テキスト型、ビジュアル型というのが紹介されており、どの者も使いやすいのではないかと話し合いになっておりました。

○谷口委員

教育図書には別冊がついているのですが、これについて教えてください。

○植林人権教育課指導主事

別冊についても意見は出ておりました。実習の授業の際に、別冊があることによって情報量としてはすごく増えるという点では、良いのではという意見が出ておりました。

一方で、教科書と別冊の両方を使用することで、結局、同じ内容のページを開くことにより、作業する場が狭くなってしまおうという声が出ておりました。

○植原教育長職務代理者

キャリア教育も技術で扱うかと思います。それに対して、各者の取り上げ方はどのようでしたか。

○植林人権教育課指導主事

各者ともキャリアに繋がる内容も取り上げておりました。この単元で学んだことが社会に出たときに、どのように生きていくのかを、実際の技術者や生産者にインタビューをし、コラムを載せるということを章の終わりに設けておりました。内容として充実していたのが東京書籍でした。

○和田委員

二次元コードですが、東京書籍はほとんどのページについていましたが、これは技術においてよく使われるのでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

二次元コードから、実習の動画を繰り返し見ることによって、個別最適な学びに繋がり、反復学習ができ、非常に活用しやすいという意見が出ておりました。

○野口委員

技術についてはいつも思うのですが、授業時数がやはり学年ごとでは 70、70、35 時間と、そんなに多くない中で、様々な学習目標を達成できないことによって、子ども達の満足感に繋がらないことがあります。その満足感を得て興味を持つということが、先ほどのキャリア教育に繋がっていくのではないかと思います。子ども達が効率よくしっかりと、中学校で学ぶべき技術を自分のものにして欲しいという思いがあります。そういう点で、例えば、エネルギー変換技術であるとか、その前の材料の確保など、時間を有効に使って、しっかりと子ども達に習得させられるというのは、どの教科書もすべて工夫されていると思います。そういう面で特徴があれば教えてください。

○植林人権教育課指導主事

技術の授業時数が少ないことで、なかなか実習に繋げにくい、全ての内容を学習するための時間を確保することが困難、という声は調査員から出ておりました。

その中で、実習例の掲載が充実していたのが東京書籍でした。実習例が多いことで、アイデアであったり、取り入れる部分が多くなり、課題解決型の授業にもつながっていくという声が出ておりました。

○野口委員

実習例が多ければ、その中で、先生、生徒にとって選択肢が多いというふうにとらえたいのでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

はい。

○大下教育長

技術に関しても、安全教育、安全確保については何か各者で特色ありますか。

○植林人権教育課指導主事

安全教育、安全確保については、すべての者が、巻頭にウェブページを設け、安全教育、安全確保ができるようになっておりました。

普段の授業ではどのようなところに気をつけて、指導するかを調査員間で話をする中で、特に電動器具を扱う単元で非常に気を使う指導を十分にしなければならない、という話が出ておりました。

例えば、卓上ボール盤の注意書き、安全についての注意書きという点では、東京書籍が6点を挙げておまして、教育図書に関しにましては5点、開隆堂出版につきましては4点、安全についての注意書きがされておるといところが比較調査の中でわかりました。

○大下教育長

では、私としましては今の意見を踏まえて技術については、東京書籍を採用したいと思えます。

1点目は、情報モラルについて最近非常に話題になっていますが、これについての功罪、便利な点と注意すべき点をわかりやすく記載をされている点。キャリア教育については、多くの職業、人数、ページを割いて紹介されている点。二次元コードについては、教員や生徒が選択できる、そういう選択肢を広げるという意味で、ほとんどのページについているという点、安全教育であり差はないようですが、これについても十分な説明をされています。以上のようなことから、中学校技術・家庭（技術分野）については、東京書籍の教科書ということでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、技術については東京書籍ということで採択したいと思えます。

次は、家庭科の審議に入ります。説明をお願いします。

○島原学校教育課指導主事

中学校技術・家庭（家庭分野）の教科書の発行者は3者あり、東京書籍、教育図書、開隆堂出版です。調査員の調査、そして選定委員会で特に取り上げられた点について、4点お話をさせていただきます。

1点目、家庭科の授業で最もよく使われています食品成分表のページです。東京書籍は、食品の摂り方の例がイラストで示され、1日に必要な摂取量は、「手ばかり」「目ばかり」の手法でわかりやすく示されています。また、デジタルコンテンツでは、献立を立てながら、栄養素の計算ができるようになっていきます。教育図書は、1回に食べやすい量や調理しやすい量をグラムで示しており、栄養素の計算をする上でとても使いやすい仕様となっております。調理の材料・分量、巻末の学習（料理）シールにも、各食品群のマークがあり、栄養素を意識しながら学習に取り組めるよう配慮されています。また、デジタルコンテンツでは、献立を立てながら、栄養素の計算ができるようになっていきます。開隆堂出版は、1日に摂りたい食品の概量について、実物大の写真が各食品別にトレーに掲載され、生徒がイメージしやすいように工夫されています。

2点目、家庭科では生活の中で、どのように自分ごととしてとらえて課題を設定し、解決していく力を養うということが求められます。その観点からの学び方についてですが、東京書籍は、各節に「目標」「レッツスタート」「学習課題」が示されており、生徒が見通しをもって学習を進めることができるとともに、各学習の導入「レッツスタート」では、写真や中学生の対話場面を通じて、生徒が身近な生活から見方・考え方の視点を通して気づきを得られるよう工夫されています。最後にふり返りとして「生活に生かそう」が示されており、学んだことを生活に生かすことができるよう工夫されています。教育図書は各節に「めあて」「キーワード」が示されるとともに、冒頭に「見つめる」として、一コマ漫画や写真等を掲載し、生徒が自らの生活から気づきを得られるよう工夫されています。「学びを生かそう」のページでは、生徒が見方・考え方を意識しながら課題の解決に取り組めるよう配慮されています。開隆堂出版は各節の「学習の目標」と学習内容に関する問いを提示し、生徒が見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されています。

3点目はデジタルコンテンツについてですが、コンテンツ数は東京書籍が373、教育図書が136、開隆堂出版が223と各者差がありました。中でも、幼児期の教育の動画については、東京書籍、開隆堂は各年齢別に細分化して掲載され、教育図書は0歳から6歳まで1つの動画にまとめられています。また、教育図書は、動画の中でも、発達についての解説が説明されています。

4点目は、食育が及ぼす影響についてです。本市の実態は、令和5年全国学力学習状況調査において、「毎日朝ご飯を食べていますか？」の中で「毎日食べています」の回答が国の平均よりも7.5ポイント下回っています。教育図書では、朝食喫食が学力、体力にどんな影響を及ぼすか、体温の変化、朝食の工夫等、詳しい記載がありました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

デジタルコンテンツについてももう少し詳しくお聞きしたいのですが、件数の上では、東京書籍のコンテンツ数が非常に多いが、内容は、教育図書の方がわかりやすい、という説明に聞こえましたが、いかがでしょうか。

○島原学校教育課指導主事

二次元コードの紹介に各者違いがあり、東京書籍と開隆堂出版では説明文の中に、二次元コ

ードのマークが示されていますが、教育図書の方は二次元コードの横に何の動画が入っているか、何の資料が入っているか、何のワークがあるかなどが示されております。幼児期については、教育図書の動画が特徴的で、発達の様子や、どのように関わった方がいいのか等、丁寧な解説があり、生徒達にとっては非常にわかりやすいのではないかという意見でした。

○植原教育長職務代理者

幼児教育、或いは乳幼児教育というのは、理論的な一面も大事だと思います。例えば愛着でしたら「ボウルヴィ」の考え方、0歳児から1歳児はどんな構造なのか、それを中学生にわかりやすく伝えること、例えば2歳3歳だったらどうする、目で追うとか、2歳3歳から社会性が出てきて、他人を見分け、接触していく。そこから「フレーベル」の考え方の遊びの中でどんだん子どもの心を成長させていくという考え方があります。

そういう理論的な心理的な心理学的な側面に沿って、わかりやすく中学生に説明していると思われるのは、どの者だというような意見は出ていましたか。

○島原学校教育課指導主事

特に教育図書に関しましては、先ほどの動画に加えて、発達段階に応じた、たくさん子どもたちの写真が掲載されています。「幼児の生活の特徴資料」という単元では、1日の生活の流れが示されていたり、「乳児の体の発達と心の発達」では、1歳から6歳までの子どもの写真が、見開きのページに掲載されていて、身長や体重であったり、全身、手先、心の発達、というように各々の写真が掲載され、解説がされているという点がとてもわかりやすいということでした。

また、大人との関わりに関しては、共働きの家庭が増えてきている中で、東京書籍は祖父と一緒に留守番することなどを取り上げ、祖父母や地域の方、子育て包括センターなどの公共施設等、様々な方に支えていただいているという記載がありました。

○植原教育長職務代理者

今よく言われているのは、例えば両親が働きに行っても会えない場合でも、保育士さんがそこで触れ合いによって、アタッチメントによって愛情を注げば、仲間との信頼関係が子どもにできるということは言われています。保護者がもしその子どもの前にいなくても、別の人が愛情を注ぐことで、情緒的には安定するようなことも言われています。そういうことを理解できるような内容が求められると思います。

○島原学校教育課指導主事

開隆堂出版は他人と会話の仕方の学習において、「アタッチメント」という言葉を使用していました。例えば、「大きいお芋を取ったんだよ。すごいね、力持ちだね」というような、身近なエピソードを掲載することで、学習を促進させるなどの工夫がありました。東京書籍は、文章での説明が多く、「考えてみよう」というコーナーを設け、例えば、「野菜を食べない子がいたらどのように関わったらいいのか」という課題提供があり、そのことに対し、子どもたち同士が意見交換をすることにつながる設定になっておりました。

○野口委員

単元の並びが違う者があると思うのですが、この点について何か意見は出ていなかったでしょうか。

○島原学校教育課指導主事

①「家族生活、家族家庭生活」、②「食生活、衣食住」、③「消費生活」のように、学習指導要領の順に単元が設けられているのは開隆堂出版と教育図書です。東京書籍は、幼児期の単元が最初と最後に分かれております。教育者側からの視点になりますが、やはり学習指導要領の順になっている方が指導しやすいという意見がありました。

○大下教育長

消費者教育ということに関して、何か各者に特徴ありますか。

○島原学校教育課指導主事

消費者教育については、キャッシュレス化など、身近な問題について各者とも詳しく書かれておりました。ページ数調査では、東京書籍が41ページ、教育図書が56ページ、開隆堂出版が33ページという結果でした。

教育図書の237ページ、238ページの見開きのページで、「クレジットカードの仕組みについて」という内容があり、対話形式で掲載されていることが、子どもたちにとって学習しやすくなっています。開隆堂出版におきましては、消費者相談に対し、どのような相談が寄せられているのか、という資料の掲載、東京書籍では、キャッシュレス化やカード決済の取り扱いなどが掲載され、デジタルコンテンツの中でシミュレーションをしながら学習できる工夫がありました。

○和田委員

食の項目では、たくさんのレシピが載っていて、献立の参考にもなります。基礎食品群をはじめ、調理の仕方など、全体的に岸和田の子が見やすい教科書はどの者になりますか。

○島原学校教育課指導主事

まず、色合いに関してですが、東京書籍はパステル調の色合いで、字が少し薄く見えるので、他者と情報量は同じであっても、少し多く感じるという意見が出ておりました。

教育図書については、レシピの初めの材料に関して、1群から6群までの栄養素のグラム数があります。また、食品群のページは、食品ごとに色分けされていて、子どもたちにとってわかりやすいという意見がありました。

開隆堂出版は、横並びで調理の仕方が掲載されていて、調理にかかる時間の流れがわかりやすいという意見が出ていました。

調査員からは、岸和田の子どもにとって、はっきりとした色合いの方が良いという意見が出ておりました。

○大下教育長

いろいろ各者ともすぐれた点があって選択に迷いますが、非常に興味を持ったのは、朝食の喫食率についてしっかりと書いていただいているという点で、教育図書さんに非常に関心を持ちました。やはり岸和田の子は学力に課題がある中で、大阪府の教育委員会も提唱している「しっかり朝食を取ろう」、朝食の喫食率が、学力と明確な相関関係があると言われております。

あわせて、それぞれいいところは多いのですが、この食品分類表を見ると、色分けが大変見やすく、子どもたちにとって、わかりやすいと思いますので、そういう点で、やはり教育図書に優位性があるのではと思いました。このような点から、家庭科については、教育図書の教科書ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、中学校技術・家庭（家庭分野）については教育図書ということで採択したいと思
います。

次は、英語科の審議に入ります。説明をお願いします。

○田坂人権教育課指導主事

英語は東京書籍、開隆堂出版、三省堂、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館の6者
です。調査員の調査や選定委員会で特に取り上げられた3点についてお伝えします。

まず1つ目ですが、調査員から、学習要素の提示の仕方について、各者、特色があるとの調
査結果でした。東京書籍はユニット内のパートが本文、新出文法、新出文法を用いた言語活動
の順番で並べられている。開隆堂出版はプログラム内の各パートが言語活動、本文、新出文法
のまとめの順番に並べられている。三省堂はレッスン内の各パートが言語活動、新出文法、本
文、本文を活用した言語活動の順番である。教育出版のレッスン内の各パートは、本文、新出
文法、新出文法を用いた言語活動の順番である。光村図書出版のユニット内の各パートは本文、
新出文法を用いた言語活動、新出文法のまとめの順番である。新興出版社啓林館のユニット内
の各パートは、本文、文法、新出文法を用いた言語活動の順番である特色であるという報告で、
各者とも学習要素が定位置に置かれ、生徒達が見通しを持って学習できるようになっていると
いう調査結果でした。

2つ目が、二次元コードについてです。

選定委員会の方でも話が出ておりました。調査では全者ページごとに二次元コードがあり、
音声や文法の解説動画などを確認できるようになっており、授業だけでなく家庭でも学習しや
すい個別の学習ができるというような調査報告でした。

3つ目が、小学校との接続についてです。現在5年生はクラウンジュニアで、6年生はワン
ワールドを使って学習しています。クラウンジュニアで学習した子どももワンワールド使って
学習した子どもも、中学校の教科書は、導入期に丁寧に「おさらい」が設定されており、接続
に支障がないと調査委員会から聞いております。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○植原教育長職務代理者

英語で大切なことは、4能力、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことですが、岸和田の
子ども達の課題、英語における課題として、この4分野のなか、どこへ重点をおいて、そして
指導しやすいものか、この点において選定委員会が出た話を教えてください。

○田坂人権教育課指導主事

小学校でも中学校でも、話す活動や、発表は比較的、意欲的に取り組める子ども達が多いの
ですが、書くことについては、苦手意識がある子ども達が多いという意見が調査員からありま
した。

書くことについては、各者、1年生の導入期は書込み式で、初めは薄文字をなぞることから
スタートするという工夫をされているところもあります。

そのうち東京書籍と三省堂は、3学年を通して書込み式になっていました。

○谷口委員

最初に各教科書の構成について説明がありましたが、先生方が子ども達にわかりやすく指導

したい順番と、教科書のコンテンツの順番が一致しているという点においては、どの教科書になるのでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

調査員の中では、子ども達に英語を習得させる上で、本文を読む前に、まずは本文で使われている新出文法をある程度理解した上で本文を読ませる方が子ども達にとって、本文の理解や文法への理解が深まるのではないかという考えから、まずは文法を習得するための言語活動、次に言語活動を通じて文法をある程度理解した上で本文、そして本文を読みながらそのあとに文法を用いた言語活動を行う、という流れが良いのではないかという話になりました。そして、その順番で構成されているのは三省堂だという話になりました。

○和田委員

英語はリスニングも大事だと思うのですが、リスニングの充実度がすぐれているところはありましたでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

各者、ユニットごとでパートごとに聴く練習が必ず入っています。三省堂の二次元コードに関しましては、読み取ってスクリプト、文字起こし文を読み取ることができるようになっており、英語を聴いて「何と言っていたのかな」という際に、文字を見ながら確認することもできるようになっており、反復学習もできる点で、三省堂のスクリプトがある二次元コードは使いやすいのではないかという話が出ていました。

○野口委員

二次元コードの音読速度については、自然な速さであったり、少し遅めであるような、者によって違いがあるように思いますが、その点についてはどういう意見が出てまいしたか。また、書くという活動について、日本語を見てそれを英語に表して書くということが重視されているのか、それともリスニングにより英語で表して書くということを重視されているのか、どちらに重点を置かれているのか、教えてください。

○田坂人権教育課指導主事

まず1つ目のご質問、リスニングの速さについてですが、各者の速さには多少の差があります。特に文法項目として、聞かせたい部分は比較的遅く設定されているものが多いです。

一方、単元の導入部では、ナチュラルな速さで設定されていることが多いので、この点に関しましては、大きな問題はありません。

次に2つ目のご質問ですが、書くことにつきましては、どちらの方を重視しているかという話は調査員の話からは出てはいませんでしたが、書くことの大きな目的は、やはり中学生が自分の思いや考えを書いて表すことができることが大切かと思えます。

○野口委員

そういう意味で、文法を学習して自分の思いを短い文章で表すということを習得しやすいのはどの教科書でしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

各者とも書くことについては十分に触れられております

○大下教育長

先ほどのリスニングの速さですが、自分の進度に応じて緩めたり早めたりすることはできな

いのでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

速さの調査はしておりませんが、試してみるとできるものがあるのかもしれませんが。

○大下教育長

小学校でも英語を学んでいますが、小学校との接続について、中学校の教科書採択において何か意識することはありますか。

○田坂人権教育課指導主事

現在の中学1年生は、小学校で教育出版の「ワンワールド」を使っており、中学校に上がり、三省堂の「クラウン」を使っています。しかし、習っていない単語があったや、この文法を習っていないなど、そのような問題はないと聞いています。

○大下教育長

あまり小学校と中学校の教科書会社を合わせる必要はないということですね。

○田坂人権教育課指導主事

そのように聞いています。

○大下教育長

小中学校と合わせる必要はないのですが、中学校の教科書については三省堂を採用したいと考えます。

お話を聞いていますと、書くことについては、東京書籍と三省堂では3年間通じて、書込み部分が設けられているという点。ただ学び方の問題として、まず、岸和田の子ども達は読む前に、新出文法をあらかじめ理解した上で読んだ方がいいのではないかと、そういう構成になっているのは唯一三省堂であるということでした。リスニングについても、二次元コードで呼び出したときにスクリプトがあわせて掲載されていて、また改めてそういう英文を見ながらリスニングができる。文字を見ながらリスニングができるということで、視覚と聴覚の両方で英語の理解が進められるという点がありました。以上のようなことに鑑みて、三省堂の教科書ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、英語については三省堂ということで採択したいと思います。

次は、道徳の審議に入ります。説明をお願いします。

○岩城学校教育課指導主事

道徳は7者でございます。

各者、道徳でよく言われている「考え、議論する道徳」となるように工夫が凝らされていたと調査員から聞いております。まずその工夫についてお話しします。

東京書籍は、巻末に心情メータがついていることです。これを使うことで自分の考えを表現し、ほかの人との議論のきっかけにしやすいという意見が出ておりました。

教育出版は各教材の冒頭に問いが載せられており、教材で考えることが、焦点化された状態で、教材を読んだり聞いたりできるので、考えが深まりやすいとの意見が出ておりました。

光村図書出版は「チャレンジ」などのコーナーで、問いの立て方や、コミュニケーションの取り方が具体的に示され、考えを持つことが苦手な生徒や、考えを表現することが苦手な生徒の支援につながると意見がありました。

日本文教出版は道徳ノートが付属されており、今までの学習を振り返ることに有効であるという意見がありました。また、ほかの人の意見を意識した振り返り欄があり、議論の充実度合いが認知しやすいとのことでした。

Gakken は教材の冒頭に短い文章であらすじが書かれており、イメージを持ちながら教材を読むことができると聞いております。コラムの数が多く、考えの広がりにも役立つという意見がありました。

あかつき教育図書は、今までも良いとされてきた定番の教材を多数盛り込むこみ、研究された教材を用いて考えの深まりや、広がりにも迫ることができる工夫がされているという意見がありました。

日本教科書は巻末にウェルビーイングカードが用意されており、自身の考えの整理や言語化、他の人との考えの共有や議論につなげていくことができるという意見がありました。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

まず私から、今は岸和田の教育課題の1つとして、今年度の教育重点施策の最重点に置いておりますが、いじめの問題が非常に大きな課題になっています。

これについては人権教育、とりわけ道徳という教科の中でしっかりと押さえていくことが大事であるということで、共通認識を持っておりますけれども、その点、いじめに関して、各者の取り上げ方はいかがでしょうか。

○岩城学校教育課指導主事

各者、いじめに関しての教材がきちっと取り上げられていると聞いております。

その中で、ユニットを組んで取り上げているものが、調査員の中でも使いやすいという意見が出ておりました。

さらにそのユニットを見ていく中でも、いじめを取り扱っている内容項目、特に「公正公平」の配分が多いとされる教科書が光村図書出版であり、いじめの教育をするにあたって、有効であるとの話し合いがなされておりました。

○大下教育長

不勉強なのですが、ユニットを組んでというのは具体的にどういうイメージですか。

○岩城学校教育課指導主事

いじめをテーマとして、様々な内容項目を組み合わせて、教材として学んでいくものです。

2時間、3時間、1つのいじめの題材を扱って学習していくことが、ユニットとなります。

○和田委員

いじめと一緒に、「いじり」もよく学校でもあることだと思うのですが、光村図書出版に「いじり」についての記載があったのですが、他にもそういった記載はありますでしょうか。

○岩城学校教育課指導主事

「いじり」といじめの違いについて取り上げているのは、光村図書出版でありました。東京書籍には、「いじり」を揶揄するようなイラストから考えるというものもありましたが、選定委員の中からは、やや見つけづらいのではという意見がありました。

○谷口委員

先ほど技術分野でもあったのですが、情報モラルのページ数がどうなっているのかというこ

とと、性の多様性のところにLGBTQについて触れている教科書はあったのでしょうか。

○岩城学校教育課指導主事

まず、情報モラルについては、現代的な課題として、どの教科書も差異なく取り上げられております。

また、LGBTQに関しても、全体的な課題として、どの者も取り上げておりましたので、そこまで大きな差異はございませんでした。

○大下教育長

道徳ではとりわけ紋切り型、説教型の授業というのは好ましくなく、特に子ども達自身が自分のこととして考える、そういう意味では主体的な学びというのが一番問われる教科だと思うのですが、その点で各者の工夫はございますか。

○岩城学校教育課指導主事

各者、考えたり、共有したりする方法が載っており、イラストの中の登場人物が、吹き出しを使って話すことによって、わかりやすく示されておりました。

その中でも、特に具体的であったのが、光村図書出版で、実際に使う文言やコミュニケーションに役立つ言葉が詳しく載っていると調査員から意見が出ておりました。

○谷口委員

日本文教出版には、今回も「道徳ノート」がついていますが、前回の選定時にもその功罪についてお伺いしたのですが、今回はいかがでしょうか。

○岩城学校教育課指導主事

「道徳ノート」に関しては、自分の考えを蓄積でき、評価に関して、選びやすかったりするなどの使い方ができれば、すごく良いという話が出ておりました。実際、ワークシートを用いて学習することが多く、そのワークシートを貼るだけになっていることなどがあったので、本当に必要かどうかという議論がありました。

○野口委員

読み物の教材でしっかり子ども達に考えさせるということはすごく大事なことだと思います。道徳が教科化されるときによく言われたのは、読み取ることだけでいっぱいになってしまうのではなくて、しっかりと読み物の中から、大切な道徳的価値を子ども達のものにしていくということが求められると思います。例えばデジタルコンテンツを使って音読を聞いて、それを一助として、子ども達が考えていく機会にしていくということも大切だと思います。読み物の教材についてはすべての者で音声でもコンテンツが付けられているのでしょうか。

○岩城学校教育課指導主事

朗読機能に関しては、教科書自体についているものは様々でしたが、デジタル教科書の方には、音読機能が標準的に備わっておりますので、そういう意味では、どの者も差異はないとの議論でした。

○大下教育長

それでは、道徳については光村図書出版を選びたいと思います。

一番大きな課題であるいじめについて、非常に豊富に取り上げており、特に「いじり」といじめの関係についても記載をされているという点。主体的な学びというところでは、子ども達のその考えを促すために、よく使う用語、或いは役立つ言葉ということで、そういう紹介もし

ながら、うまく導くようなシステムになっているというお話がございました。これらのことから、道徳については光村図書出版ということでよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、道徳は光村図書出版ということで採択したいと思います。

一通り以上で、各教科の採択図書の選定を終わりましたので、私の方から再確認のために、教科ごとの採択教科書会社を読み上げさせていただきます。

国語は光村図書出版、書写は三省堂、社会のうち地理的分野は帝国書院、地図も同じく帝国書院、歴史的分野は東京書籍、公民的分野は帝国書院、数学は数研出版、理科は新興出版社啓林館、音楽（一般）は教育芸術社、音楽（器楽合奏）は教育芸術社、美術は光村図書出版、保健体育は東京書籍、技術家庭（技術分野）は東京書籍、技術家庭（家庭分野）は教育図書、英語は三省堂、最後、道徳は光村図書出版、審議していただいた結果、このように岸和田市における令和7年度の使用教科用図書を採択したいと思います。よろしいですか。

(教育委員 異議なし)

それでは、そのようにさせていただきます。ご審議ありがとうございました。

以上で、公開の案件は終了しました。

次に、非公開の案件の審議に入ります。関係者以外は退席願います。

議案第34号 岸和田市立小中学校における令和7年度使用教科用図書（附則9条に関わる図書）の採択について

(非公開議案1件について審議され、承認された。)

○大下教育長

以上で全ての案件が終了しましたが、他に何かございませんか。

ないようですので、これをもちまして本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後7時55分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

教育長

署名委員